

■地域文化研究専攻教員の活動 (2022年1月～12月)

*所属教員名の五十音順に、各人の研究活動を下記の項目にしたがって記載した。

*該当業績のない項目は省略している。

*前年記載漏れの業績なども含む。

A. 著書, B. 分担執筆, C. レフェリー付き学術論文, D. 一般学術論文, E. 翻訳, F. その他の業績, G. 国際学会での活動, H. 国内学会での活動, I. その他の研究活動, J. 受賞

相田豊 (AIDA Yutaka)

C. レフェリー付き学術論文

- 相田豊. 序 (特集「孤独とつながり——ポスト関係論的音楽論に向けて」). 『文化人類学』. **87.3**. pp. 407-420. 日本文化人類学会. 2022.
- 相田豊. 反抗、世代、強度——ポリビア・フォルクローレ音楽家の孤独とつながり. 『文化人類学』. **87.3**. pp. 480-498. 日本文化人類学会. 2022.

F. その他の業績

- 相田豊. エッセイ. カリカリに気をつけろ！——ポリビアをひとりで旅することについて. 『FIELDPLUS』. **28**. pp. 16-17. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所. 2022.

H. 国内学会での活動

- 筑波民俗学人類学コロキウム. 第18回公開合評会「野澤豊一・川瀬慈編著『音楽の未明からの思考——ミュージッキングを超えて』合評会」. 筑波人類学研究会. オンライン開催. 2022.6.18. コメンテーター. なぜ、それでもなお、わたしたちは「音楽的なもの」について考えることをやめないのか——『音楽の未明からの思考』に寄せて.

秋葉淳 (AKIBA Jun)

B. 分担執筆

- 秋葉淳. オスマン帝国近代の改革——近代化=西欧化=世俗化か. 吉澤誠一郎 (監修). 石川博樹, 太田淳, 太田信宏, 小笠原弘幸, 宮宅潔, 四日市康博 (編著). 『論点・東洋史学 アジア・アフリカへの問い 158』. p. 362. pp. 222-223. ミネルヴァ書房. 2022.
- 秋葉淳. オスマン帝国の諸改革. 吉澤誠一郎, 林佳世子 (責任編集). 『岩波講座世界歴史 17 近代アジアの動態 一九世紀』. p. 304. pp. 65-92. 岩波書店. 2022.

E. 翻訳

- 大河原知樹, 秋葉淳, 藤波伸嘉 (訳). [全訳] オスマン帝国憲法. pp. 1-23. 東洋文庫リポジトリ. 2022. <https://doi.org/10.24739/00007560>.

G. 国際学会での活動

- Symposium: Ottoman Ego-Documents. Istanbul Medeniyet University (online participation). 2022.6.15-

17. 一般発表. Ottoman Judges as Ego-document Authors: A Case of Şemdanizade Fındıklılı Süleyman Efendi. 英語.
- 15th International Congress of Ottoman Social and Economic History. University of Zagreb. 2022.7.11–15. 一般発表. Schoolboys in Ankara and its Environs in 1836: An Analysis of the Population Registers. 英語.
 - Western Ottomanists' Workshop 2022. University of California, Los Angeles (online participation). 2022.11.18–19. ディスカッション. 英語.
- H. 国内学会での活動
- 東大研セミナー「第3回オスマン帝国史研究セミナー」. オンライン (東京大学東洋文化研究所). 2022.3.25. 一般発表. オスマン帝国ウラマーの3種の任命・位階台帳.
 - イスラーム信頼学ワークショップ「帝国秩序とコネクティビティ」. オンライン (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所). 2022.9.22. 一般発表. オスマン帝国のウラマー職階制——特権と血縁・地縁の結合.
 - 2022年度九州史学会大会. 九州大学文学部. 2022.12.10–11. 企画. シンポジウム「オスマン帝国における階層とジェンダー」. 英語・日本語. 一般発表. Social Origins of Ottoman Military Officers: Graduates of Kuleli Military High School in 1896 (永島育との共同報告). 英語.

網野徹哉 (AMINO Tetsuya)

B. 分担執筆

- 網野徹哉. トレント公会議とアンデスにおける先住民布教. 安村直己 (編). 『岩波講座世界歴史第14巻 南北アメリカ大陸 ~17世紀』. p. 304. pp. 173–192. 岩波書店. 2022.

有田伸 (ARITA Shin)

B. 分担執筆

- 鈴木富美子・有田伸. 結婚満足度はなぜ低下するのか——効果の非対称性とジェンダー差に着目して. 西野理子 (編). 『夫婦の関係はどうか変わっていくのか——パネルデータによる分析』. p. 214. pp. 61–84. ミネルヴァ書房. 2022.
- 有田伸. 社会的地位としての職業. 数理社会学会数理社会学事典刊行委員会 (編). 『数理社会学事典』. p. 782. pp. 318–321. 丸善出版. 2022.
- Arita, S. Explanation of Socioeconomic Inequality Among the Male Elderly: An Approach Based on Estimated Income History. Shirahase, S. (ed.). *Social Stratification in an Aging Society with Low Fertility: The Case of Japan*. p. 214. pp. 173–191. Springer. 2022.
- 有田伸. グローバル化は比較社会研究に何をもたらすか. 國分功一郎・清水光明 (編). 『地球的思考——グローバル・スタディーズの課題』. p. 426. pp. 149–173. 水声社. 2022.

C. レフェリー付き学術論文

- Ishida, K., Arita, S. Contextual Obstacles to Entrepreneurship in Japan from the Perspective of the Overseas Japanese Self-Employed. *Electronic Journal of Contemporary Japanese Studies*. **22.1**. 2022.

D. 一般学術論文

- Arita, S. Asymmetric Analysis of Panel Data: When and Why Is It Necessary?. JLPS Project Discussion Paper Series. **152**. p. 13. 2022.
- 有田伸. 就業構造基本調査データによる収入格差の要因分解に関する覚え書き——Regression-Based Inequality Decomposition に基づく分析とその展開. 竹ノ下弘久 (編). 『階級、ジェンダー、エスニシティの相互作用と不平等の実証研究 (科学研究費補助金基盤研究(B)(18H00931)研究成果報告書)』. pp. 1–15. 2022.

F. その他の業績

- 石原俊・有田伸. 特集の趣旨 (いま「戦争」を考える——社会学・社会福祉学の視座から). 『学術の動向』. **321**. pp. 9–10. 2022.
- 有田伸. コロナ・パンデミックと社会調査. 『学術の動向』. **318**. pp. 44–46. 2022.
- 有田伸・首藤若菜・田中秀樹・池田心豪. 学会展望 労働調査研究の現在——2019～21年の業績を通じて. 『日本労働研究雑誌』. **740**. pp. 2–47. 2022.

G. 国際学会での活動

- Global HR Forum 2022. 韓国教育部・韓国経済新聞・韓国職業能力研究院. Grand Walkerhill Seoul. 2022.11.2. 招待発表. Higher Education and Regional Growth: The Case of Japan. 英語.
- 京師海外名家系列講座. 北京師範大学. オンライン (北京師範大学). 2022.6.30. 招待講演. Toward the Indigenization of Social Stratification Studies in East Asia. 英語.
- 応用日語国際学術研討會. 文藻外語大学日本語文系・台湾応用日語学会. オンライン (文藻外語大学). 2022.4.30. 招待講演. コロナ下における日本研究の可能性——「外部」の視点を活かして. 日本語.

H. 国内学会での活動

- 第 95 回日本社会学会大会. 日本社会学会. 追手門学院大学. 2022.11.13. 招待発表. コロナ・パンデミックと就業——「社会学」を生かしたポストコロナ社会構想のために.
- 第 73 回数理社会学会大会. 数理社会学会. オンライン (信州大学). 2022.8.28. 一般発表. 高校卒高所得者の特徴とその時代的変遷 (多喜弘文・平沢和司・神林博史・吉田崇との共同報告).
- 日本労務学会 2021–2022 年度関東部会第 2 回研究会. 日本労務学会. 法政大学. 2022.6.11. 招待発表. 社会階層と収入格差——韓国との比較を中心に.

アルヴィ宮本なほ子 (ALVEY Miyamoto Nahoko)

B. 分担執筆

- Alvey, Miyamoto Nahoko. Mountain that “Walks Abroad.” Clay Franklin Johnson, ed. *I am borne darkly, fearfully, afar’: Essays in Honour of Percy Bysshe Shelley on the Bicentenary of His Death, 1822–2022*.

GothicKeats Press. 2022.7.8. <https://www.gothickeatspress.com/essay/the-mountain-that-walks-abroad>.

F. その他の業績

- アルヴィ宮本なほ子. 海を渡ったシェリーの手稿. デジタル万華鏡——「東大の多様な学術資産を再確認しよう」第27回. 「学内広報」. **1555**. 2022.2.21. p. 8. コラムコーナー.

G. 国際学会での活動

- Nahoko Miyamoto Alvey. The Shelley Conference (#Shelley200). Online. 2022.5.5. (BST). 招待. The travels of Shelley's "Fragment of an Address to the Jews." 英語.
<https://theshelleyconference.com/2022/05/13/shelley200-roundtable-shelley-and-travel/>.
<https://www.youtube.com/watch?v=-X9pRTVLttw>.

H. 国内学会での活動

- アルヴィ宮本なほ子. 日本英文学会九州支部第75回大会. 日本英文学会九州支部. 西南学院大学. 2022.10.23. 招待 (特別講演). "The lone and level sands stretch far away"——Shelley と帝国の夢.

I. その他の研究活動

- Nahoko Miyamoto Alvey. The Bicentenary of Percy Bysshe Shelley's Death in Italy specially created virtual Keats-Shelley House. An online global event presented by the Keats-Shelley House, Rome and the Keats-Shelley Association of America. Part 2—The Triumph of Life: A global reading of The Triumph of Life, Shelley's last, unfinished poem, in fifteen languages read by readers from twenty-six locations around the world. 招待：日本語の部分を担当. 2022.7.8. (1 p.m. EDT/ 6 p.m. BST/ 7 p.m. CEST).

井坂理穂 (ISAKA Riho)

B. 分担執筆

- 井坂理穂. M.K. ガーンディーの「語り」. 松方冬子・水野博太・後藤春美・井坂理穂. 『語る力が権力を作る?——歴史からの問い』. p. 53. pp. 27–35. 東京大学連携研究機構ヒューマニティーズセンター. 2022.
- 井坂理穂. 一九世紀インドにおける植民地支配 司法と教育. 吉澤誠一郎・林佳世子 (編). 『岩波講座 世界歴史 17 近代アジアの動態 一九世紀』. p. 304. pp. 93–119. 岩波書店. 2022.

D. 一般学術論文

- 井坂理穂. 植民地期インドのユダヤ・コミュニティとシオニズム. 『ODYSSEUS 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻紀要』. **26**. pp. 157–174. 2021.

F. その他の業績

- 井坂理穂. 長谷川先生の語りの魅力——長谷川まゆ帆先生を送る. 『ODYSSEUS 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻紀要』. **26**. pp. 203–205. 2021.
- 井坂理穂. 植民地期インドの禁酒運動. 『みんぱく』. **46.5**. pp. 6–7.
- 井坂理穂. 文庫版解説. 長崎暢子 『インド大反乱一八五七年』. p. 296. pp. 287–296. ちくま学芸文庫. 2022.

G. 国際学会での活動

- Dialogues. IIT Gandhinagar, Humanities and Social Sciences. オンライン. 2022.4.20. 招待講演. Debates on Language in Modern Gujarat: Dialogues between Past and Present. 英語.
- Guest Lecture. Samarpan Arts and Commerce College (Gandhinagar). 2022.9.7. 招待講演. Research Methodology. 英語.
- Revisiting the Situatedness of Knowledge: Sites of Knowledge in Asia. Shaping Asia. ハイブリッド. 2022.9.26. 一般発表. Knowledge Circulation and Travelling: Japanese Travellers' Narratives of Food in Colonial India. 英語.

H. 国内学会での活動

- 横浜と世界の友好・協力都市——歴史と未来を語る. 神奈川大学. 神奈川大学みなとみらいキャンパス (横浜). 2022.5.27. 招待講演. ムンバイと横浜.
- 南アジア研究センター・セミナー (報告者: Dr. Nafay Choudhury). 東京大学. オンライン. 2022.7.8. 企画, 司会.
- 南アジア研究センター・セミナー (報告者: Dr. Rochana Bajpai). 東京大学駒場キャンパス. ハイブリッド. 2022.9.20. 企画, 司会.
- 南アジア研究センター・セミナー: Fieldwork Experiences in Asia. 東京大学. オンライン. 2022.11.11. 企画, 司会.
- 南アジア研究センター・セミナー: 現代世界とユダヤ——インドとアルゼンチンの事例から. 東京大学駒場キャンパス. ハイブリッド. 2022.12.13. 企画, 司会.
- 日本南アジア学会第 35 回全国大会. 日本南アジア学会. 帝京大学八王子キャンパス (東京). 2022.9.24. 一般発表. 近現代インドのユダヤ・コミュニティと「故郷」をめぐる言説.

石井剛 (ISHII Tsuyoshi)

B. 分担執筆

- 石井剛. まえがき. 東京大学東アジア藝文書院編. 私たちは世界の「悪」にどう立ち向かうか. p. 361. pp. 3–14. トランスビュー. 2022.
- 石井剛. 第 12 講「たたかう「文」の共同体に向けて」. 東京大学東アジア藝文書院編. 私たちは世界の「悪」にどう立ち向かうか. p. 361. pp. 325–361. トランスビュー. 2022.
- 石井剛. 第 7 章「科学精神和“理”的変遷: 中華民国初期清代学術評価之争」. 川原秀城編. 毛以馨訳. 西学東漸与東亜. p. 323. pp. 235–255. 上海社会科学院出版社. 2022.
- 石井剛. 感染症の歴史. 東京大学東アジア藝文書院編. 文学・哲学・感染症. p. 321. pp. 73–82. 論創社. 2022.

C. レフェリー付き学術論文

- Tsuyoshi Ishii. The “Philological Turn” in the Chinese Academy of Qing Dynasty and World Philosophy. *Oriens Extremus: Kultur, Geschichte, Reflexion in Ostasien*. 58. pp. 231–249. 2022.

- 石井剛. 文的縫隙、混沌之辺：从共生的難題到“宇宙的希望”. 萃岭. **1** (2022). pp. 212–229. 2022.
- 石井剛、莫加南、頼錫三. 章太炎『斉物論釈』“天籟怒号”对国家民族、語言文化的超克意義. 商丘師範学院学報. **38.4**. pp. 20–36. 2022.

D. 一般学術論文

- 石井剛. 現代思想として中国を読む. 大学出版. **131**. pp. 11–15. 2022.

F. その他の業績

- 石井剛. 書評. 葛兆光 (橋本昭典訳) 『中国は“中国”なのか 「宅茲中国」のイメージと現実』. Web 東方. 2022. https://www.toho-shoten.co.jp/web_toho/?p=3181.
- 石井剛. 書評. 伊達聖伸、アブデヌール・ビダール編 『世俗の彼方のスピリチュアリティ フランスのムスリム哲学者との対話』. 教養学部報. **637**. 2022.
- 石井剛. 卷末解説. 中島隆博. 王欽訳. 作為思想的語言. p. 169. pp. 152–162. 北京大学出版社. 2022.

G. 国際学会での活動

- 華東師範大学国際知名学者大講堂. 華東師範大学. 華東師範大学 (オンライン). 2022.12.13. 招待講演. 我心何処?——重温孟子“惻隱之心”. 中国語.
- 庄子人間世国際学術研討会. 北京大学哲学系. 北京大学 (オンライン). 2022.12.13–4. 招待講演. 章太炎『斉物論釈』中的“心齋”. 中国語.
- 学術講演. 北京大学元培学院. 北京大学 (オンライン). 2022.6.30. 招待講演. 岡倉天心『茶書』中的和平主義美学. 中国語.
- 「重読魯迅:問題与方法」工作坊. 華東師範大学中文系. 華東師範大学 (オンライン). 2022.11.26. 招待講演. 尋訪他者、回望自我:何謂「閲読魯迅」?. 中国語.
- 「共生哲学与漢学之島」跨文化国際研討会. 国立中山大学文学院. 国立中山大学 (オンライン). 2022.7.8–9. 招待講演. 天下政治の共生条件:「是非之辨」何以成為維護和諧共生的政治基礎?. 中国語.
- EAA 座談会「書院内外の学問与芸術生活」. 東京大学東アジア藝文書院. オンライン. 2022.3.16. 司会者. 中国語.
- 「共生」系列第三場学術研討会「共生的境界、凝聚力与行星治理」. 北京大学バークグルエン研究センター. 五礦君瀾酒店 (北京、オンライン参加). 2022.9.17. ディスカッサント. 中国語.

H. 国内学会での活動

- 公開シンポジウム「今、なぜ「国家」が問われるのか?」. 日本学術会議哲学委員会. オンライン. 2022.12.10. 招待講演. 天と民の間で——中国における「共在」の哲学とその射程.
- 劉争『「例外」の思想——戦後知識人・加藤周一の射程』公開合評会. 東京大学東アジア藝文書院. 東京大学 (東京). 2022.7.4. コメンテーター.
- 人文社会科学系組織連絡会議共同シンポジウム「人文社会科学の構想力」. 東京大学人文社会科学系組織連絡会議. オンライン. 招待講演. 新しい学問の試み——東アジア藝文書院の現代

と未来。

- ダイキン東大産学協創フォーラム「[空気の価値化]が創生する未来の社会と技術」。ダイキン東大ラボ。東京大学（東京）。2022.11.30。ポスター発表。東アジアからの新しいリベラルアーツによる「空気の価値化」。
- EAA ワークショップ「東アジアから問う越境の方法」。東京大学東アジア藝文書院。東京大学（東京）。2022.11.29。コメンテーター。

石田勇治 (ISHIDA Yuji)

F. その他の業績

- 石田勇治。推薦のことば。『ナチス・ドイツとユダヤ企業』。山本達夫著。勉誠出版。pp. 1-2. 2022.
- 石田勇治。あとがき。『ナチ・ドイツにおける労働動員——ドイツ人、外国人、強制収容所囚人：ユンカース航空機・発動機製作所を事例に』増田好純著。神戸大学出版会。pp. 224-225. 2022.

G. 国際学会での活動

- Ishida, Yuji. GSI Caravan International Conference. Public Sphere and Diversifying Views of History. Opening Remarks. Memories and Reconciliation in Europe and Asia. Center for German and European Studies at the University of Tokyo. 5. November 2022.

H. 国内学会での活動

- 石田勇治。第 72 回日本西洋史学会。記念講演。ヴァイマル共和国史再考——ヒトラー前夜？東洋大学。2022.5.21.

I. その他の研究活動

- 石田勇治。歴史に学ぶ緊急事態条項の危険性——ワイマール憲法下ドイツの事例から。木村草太氏との対談。『現代思想』。50.3. pp. 80-94. 2022.
- 石田勇治。世界史アップデート ヒトラー独裁の実態。読売新聞夕刊。2022.6.28.
- 石田勇治。監修。ドキュメンタリー映画「北のともしび ノイエンガンメ強制収容所とブレンフーザー・ダムの子どもたち」。東志津監督。S.A プロダクション。2022.7.

石橋純 (ISHIBASHI Jun)

E. 翻訳

- 学術講演会記録の翻訳。ルベン・メルガレホ＝ウエスカ「メキシコ、ベラクルスにおける民衆音楽——口承から大学教育へ」。『立教大学ラテンアメリカ研究所報』。49-50. 2022.3.

F. その他の業績

- 連載エッセーの企画監修。Walking in the rhythm——都市のリズム。『Kajima』。748-760. 鹿島株式会社。2022.1-12.
- エッセー。ニューヨーク・ワシントンハイツ。Walking in the rhythm——都市のリズム。『Kajima』。748. pp. 16-19. 鹿島株式会社。2022.

- ホローボによるリズムゲーム. 牧野翔と共著. 『高校生の音楽1』. pp. 24–25. 教育芸術社. 2022.
- 平原の魂 (ベネズエラ歌曲の歌唱用日本語詞作詞). 『高校生の音楽1』. p. 73. 教育芸術社. 2022.
- ホローボによるリズムゲーム (解説編). 牧野翔と共著. 『高校生の音楽1・研究資料編』. p. 16. 教育芸術社. 2022.
- 「ホローボによるリズムゲーム」ならびに「平原の魂」. 実演動画資料作成. 『高校生の音楽1』派生企画. 教育芸術社. 2022.

H. 国内学会での活動

- 学会討論者. 岩村健二郎「キューバのアフリカ系『民族』の表象の歴史における間テクスト性」. 日本ラテンアメリカ学会第43回定期大会報告に対する討論.

I. その他の研究活動

- 講演会企画・司会・通訳. 「母なる音、山の声」アンデス北部フワイ地方におけるアイデンティティ表現としての歌. 2022.7.9. 立教大学ラテンアメリカ研究所主催講演会.

井上博之 (INOUE Hiroyuki)

D. 一般学術論文

- Inoue, H. Looking Back, Moving On: Suspension and Mobility in Willy Vlautin's *Northline. Odyssey*. 26. pp. 75–91. 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻. 2022.
- Inoue, H. Lost and Found in Los Angeles: Urban Alienation and Expressionist Topography in *Punch-Drunk Love. Pacific and American Studies*. 22. pp. 53–67. 東京大学アメリカ太平洋地域研究センター. 2022.
- 井上博之. 不純な小説のために——ヴィエト・タン・ウエン「アメリカ人」と現代合衆国文学の位置. 『立命館言語文化研究』. 34.2. pp. 147–153. 2022.

F. その他の業績

- 井上博之. 書評. 堀潤之・木原圭翔編『映画論の冒険者たち』. 『日本映画学会会報』. 66. pp. 9–12. 2022.7.
- 井上博之. 書評. 山口和彦著『コーマック・マッカーシー——錯綜する暴力と倫理』. 『英文学研究』. 99. pp. 84–88. 2022.

H. 国内学会での活動

- シンポジウム『『生まれつき翻訳——世界文学時代の現代小説』から見えてくるもの』. 立命館大学国際言語文化研究所. オンライン. 2022.3.17. パネリスト. 西へ東へ——ヴィエト・タン・ウエン「アメリカ人」と現代合衆国文学の位置.
- 第1回グローバル・スタディーズ・セミナー. 東京大学グローバル・スタディーズ・イニシアティブ/地域文化研究専攻. 東京大学駒場キャンパス/オンライン. 2022.6.30. 発表. 地図にない場所を創る——『メルキアデス・エストラーダの3度の埋葬』、米墨国境地帯、ウェスタンの変容.

I. その他の研究活動

- CPAS セミナー. 東京大学アメリカ太平洋地域研究センター. 東京大学駒場キャンパス/オンライン. 2022.7.7. David S. Goldstein 講演. Story and History: Bulosan, Mori, and Rural California around 1940. コメンテーター.

王欽 (WANG Qin)

A. 著書

- 『魯迅を読もう——<他者>を求めて』. p. 296. 春秋社. 2022 年.

B. 分担執筆

- 王欽. 私たちの憲法“無感覚”——竹内好を手掛かりとして. 東京大学東アジア藝文書院編. 『私たちは世界の「悪」にどう立ち向かうか』. p. 361. pp. 135–160. トランスビュー. 2022.

C. レフェリー付き学術論文

- 主体, 抵抗与革命的潜能: 论竹内好的“终末”美学. 《中国现代文学研究丛刊》. 6. 2022.
- 论宽恕的时间: 重读鲁迅〈风筝〉. 《现代中文学刊》. 3. 2022.

E. 翻訳

- 中島隆博. 《作为思想的语言》. 北京大学出版社. p. 180. 2022. [中島隆博. 『思想としての言語』. p. 260. 岩波書店. 2017.]

大塚修 (OTSUKA Osamu)

B. 分担執筆

- 大塚修. 世界史認識——「普遍史」とは何か, セルジューク朝——トルコ系遊牧王朝の歴史的意義は何か. 吉澤誠一郎 (監修). 『論点・東洋史学——アジア・アフリカへの問い 158』. p. 378. pp. 86–87, 94–95. ミネルヴァ書房. 2022.
- Ūsāmū Ūtsūkā (大塚修). Pāzhūhishī darbāra-yi Dhayl-hā-yi Tārīkh-i Guzīda: Dhayl-i Tāza Kashf Shuda darbāra-yi Tārīkh-i Jalāyiriyān (『選史』続編の研究——ジャーラーイル朝史に関する新出史料). M. Bahrām-nizhād, B. ‘Ādīlfar & M. Bakhtiyārī (eds.). *Majmū‘a-yi Maqālāt-i Hamāyish-i Millī-yi Mīrāth-i ‘Ilmī wa Farhangī-yi Hamd Allāh Mustawfī Qazwīnī*, p. 408. pp. 55–78. Dānishgāh-i Bayn al-Milālī-yi Imām Khumaynī & Mu’assasa-yi Pāzhūhishī-yi Mīrāth-i Maktūb, 2022.

E. 翻訳

- 大塚修・赤坂恒明・高木小苗・水上遼・渡部良子 (訳註). 『カーシャーニー オルジェイトゥ史——イランのモンゴル政権イル・ハン国の宮廷年代記』. p. 516. 名古屋大学出版会. 2022.
- 亀谷学・大塚修・松本隆志. イブン・ワーディフ・ヤアクービー著『歴史』訳注 (3). 『人文社会科学論叢』. 12. pp. 69–100. 弘前大学人文社会科学部. 2022.

G. 国際学会での活動

- Hamāyish-i Īrān-shināsān-i Īrān wa Zyāpun (イラン・日本のイラン研究者集会). 在東京イラン大

使館. 在東京イラン大使館（オンライン併用）. 2022.4.30. 招待講演. Barrasī-yi Nusakh-i Khaṭṭī-yi Fārsī（ペルシア語写本研究）. ペルシア語.

H. 国内学会での活動

- 2022 年度立教大学史学会大会. 立教大学史学会. 立教大学池袋キャンパス. 2022.6.18. 招待講演. ティムール朝における学芸保護と学知——イスカダル・スルターンの『傑作集』を中心に.
- 日本オリエント学会第 64 回大会. 日本オリエント学会第 64 回大会実行委員会. 東京大学駒場 I キャンパス（オンライン併用）. 2022.10.29–10.30. 実行委員会事務局長.
- 東洋学・アジア研究連絡協議会シンポジウム. 東洋学・アジア研究連絡協議会. オンライン. 2022.12.3. 招待講演. アラビア文字写本研究の新潮流と東洋学アジア研究.

I. その他の研究活動

- 東京大学コミュニケーションセンター（UTCC）シリーズ【第 3 弾】「ハラール産業とイスラム圏の食文化」. 東京大学コミュニケーションセンター. SHIBUYA QWS 内 CROSS PARK（オンライン併用）. 2022.1.27. 招待講演. シーア派イランの食文化.

岡田泰平（OKADA Taihei）

B. 分担執筆

- Taihei Okada. Manuel L. Quezon's Trans-Pacific Itinerary: A Quest in Political Symbolism. *Colonialism and Modernity: Re-mapping Philippine Histories*. p. 223. pp. 109–130. Ateneo de Naga Press. 2022.
- 岡田泰平. 憲兵と暴力——マニラ BC 級裁判の記録を中心に. 蘭信三・石原俊・一ノ瀬俊也・佐藤文香・西村明・野上元・福岡良明. 『シリーズ戦争と社会 5 変容する記憶と追悼』. p. 241. pp. 43–60. 岩波書店. 2022.
- 岡田泰平. フィリピン「慰安婦」運動の軌跡——その初期に注目して. 外村大編『和解学叢書 4 和解をめぐる市民運動の取り組み——その意義と課題』. p. 336. pp. 259–291. 明石書店. 2022.

F. その他の業績

- エッセー. 岡田泰平. 「和解」を目的とすることの難しさ. 『科研費新学術領域研究（研究領域提案型）和解学の創成 成果報告書』. p. 18. 2022.11.
- 書評. 岡田泰平. 早瀬晋三『すれ違う歴史認識——戦争で歪められた歴史を糺す試み』人文書院. 2022. 412p. 『東南アジア研究』. **60.1**. pp. 27–29. 2022. 7.
- 書評. 岡田泰平. 荒哲『日本占領下のレイテ島——抵抗と協力をめぐる戦時下フィリピン周縁社会』. 日本歴史学会編. 『日本歴史』. **887**. pp. 105–107. 2022.4.

G. 国際学会での活動

- Jose Eleazar Bersales and Taihei Okada. Focusing on Regions, Connecting Individuals: Cebu Japanese in Peace and War. Panel 3b: War and Historiography—Filipino and Japanese Perspectives on the Japanese Occupation in the Philippines. The 5th Philippine Studies Conference in Japan (PSCJ 2022). The University of Tokyo, Komaba Campus. 26 November 2022.

- Taihei Okada. The Toyota Foundation Project and Its Aftermath. Panel 3b: War and Historiography—Filipino and Japanese Perspectives on the Japanese Occupation in the Philippines. The 5th Philippine Studies Conference in Japan (PSCJ 2022). The University of Tokyo, Komaba Campus. 26 November 2022.
- Taihei Okada. From Indemnities to Redress, 1950s–1990s: Tracing the Changing Attitudes of the Japanese Society towards the Battle of the Philippines. GSI Caravan International Conference: Public Sphere and Diversifying Views of History: Memories and Reconciliation in Europe and Asia. Center for German and European Studies at the University of Tokyo, Komaba. Online. 5 November 2022.
- 実行委員長. The 5th Philippine Studies Conference in Japan (PSCJ 2022). The University of Tokyo, Komaba Campus. 26–27 November 2022.

H. 国内学会での活動

- 運営委員長. 地域研究コンソーシアム (JCAS) .

I. その他の研究活動

- 高校生向けレクチャー. 岡田泰平. グローバル・サウスの研究を楽しむ——フィリピン近現代史研究の立場から. 東京大学総合文化研究科オープンキャンパス. 2022.8.3.
- オンライン・レクチャー. 岡田泰平. 東南アジア. 『ウクライナ危機を見る複数の眼』 Tokyo College. 2022.4.20.

小川浩之 (OGAWA Hiroyuki)

B. 分担執筆

- 小川浩之. 「3つのサークル」と戦後イギリス対外政策の系譜. 葛谷彩・小川浩之・春名展生 (編著). 『国際関係の系譜学——外交・思想・理論』. p. 280. pp. 167–192. 晃洋書房. 2022.
- 小川浩之. 南アフリカへの制裁をめぐるグローバルな圧力——冷戦秩序の揺らぎとアパルトヘイトの終焉へ. 益田実・齋藤嘉臣・三宅康之 (編著). 『デタントから新冷戦へ——グローバル化する世界と揺らぐ国際秩序』. p. 338. pp. 316–336. 法律文化社. 2022.

F. その他の業績

- 小川浩之. コラム. 冷戦期, およびその終結後の世界と国際平和. 岡本隆司・飯田洋介・後藤春美 (編). 『いまを知る, 現代を考える 山川歴史講座 国際平和を歴史的に考える』. p. 201. pp. 172–179. 山川出版社. 2022.
- 小川浩之. 女王なき後の英連邦の行方. 『Voice』. **541**. pp. 140–146. 2022.
- 小川浩之. 書評. ティモシー・スナイダー著, 松井貴子訳. 『秘密の戦争——共産主義と東欧の20世紀』. 慶應義塾大学出版会, 2021年. 『外交』. **75**. pp. 142–145. 2022.
- 小川浩之. 項目執筆. スエズ戦争とコモンウェルス (1956–57年)——帝国史の転換点, イギリスのEEC加盟問題, コモンウェルスの衰退——戦後イギリス対外政策の変容. 岩間陽子・君塚直隆・細谷雄一 (編著). 『ハンドブック ヨーロッパ外交史——ウェストファリアからブレグジットまで』. p. 252. pp. 136–141, 156–157. ミネルヴァ書房. 2022.

- 小川浩之. 書評. Tomohito Baji. *The International Thought of Alfred Zimmern: Classicism, Zionism and the Shadow of Commonwealth*. Palgrave Macmillan. 2021. 『アメリカ太平洋研究』. **22**. pp. 111–116. 2022.
- 小川浩之. 書評. 堀内隆行. 『ネルソン・マンデラ——分断を超える現実主義者』. 岩波書店, 2021年. 『外交』. **71**. pp. 140–143. 2022.

G. 国際学会での活動

- Human Rights Colloquium: A HSP Symposium. Komaba I Campus, The University of Tokyo. 2022.7.23. 一般発表. The UK-South Africa Security Relationship in the Era of Apartheid. 英語.
- British-East Asian Conference of Historians (BEACH) Workshop. オンライン. 2022.3.29. 一般発表. The Empire-Commonwealth, European Integration, and Periodization in the History of Postwar British External Policy. 英語.
- Workshop of the Global Studies Initiative (GSI) Caravan. オンライン. 2022.3.16. 司会. Odd Arne Westad, Small States in International Affairs since the End of the Cold War. 英語.

H. 国内学会での活動

- 日本政治学会 2022 年度研究大会. 日本政治学会. 龍谷大学深草キャンパス. 2022.10.1–10.2. 一般発表. ポスト・ブレグジットのイギリス政治外交——「脱地域統合」の可能性と限界.
- 日本政治学会 2022 年度研究大会. 日本政治学会. 龍谷大学深草キャンパス. 2022.10.1–10.2. 池田亮報告「スエズ危機「解決」の過程と英米関係」, 鳥潟優子報告「東南アジアにおける冷戦と「帝国」の攻防」, 吉田徹報告「冷戦終結の「始末」——フランス・ミッテラン大統領による「欧州連邦構想」の出自と帰結」. コメンテーター.

I. その他の研究活動

- 小川浩之. 監修. 『地図でわかる 世界の戦争・紛争②中東・アジア～湾岸戦争, アフガニスタン紛争ほか』. p. 39. 汐文社. 2022.

上英明 (KAMI Hideaki)

B. 分担執筆

- 上英明. キューバ危機. 歴史学研究会 (編). 『「歴史総合」をつむぐ——新しい歴史実践へのいざない』. p. 285. pp. 203–210. 東京大学出版会. 2022.

C. レフェリー付き学術論文

- Kami, Hideaki. Migration Normalcy: Havana's Dialogue with Washington before the Balsero Crisis. *Diplomatic History*. September 23, 2022. DOI: 10.1093/dh/dhac064. (オンライン先行発表のため巻号未定.)

D. 一般学術論文

- Kami, Hideaki. Alexander Haig's Paradoxical Legacy on Cuba. *Texas National Security Review Policy*. July 21, 2022. <https://tnsr.org/roundtable/policy-roundtable-reconsidering-alexander-haig/#essay3>.

F. その他の業績

- Kami, Hideaki. Review of Håkan Karlsson and Tomás Diez Acosta's *The Johnson Administration's Cuba Policy: From "Dirty War" to Passive Containment* (London: Routledge, 2020). *New West Indian Guide*. **96.1–2**. pp. 193–194. 2022.

H. 国内学会での活動

- 日本アメリカ学会年次大会 2022. 日本アメリカ学会. 中央大学 (東京) . 2022.6.5. 部会発表. 移民危機はなぜ起きるのか? ——冷戦後の米・キューバ移民交渉と「予告された移民危機」.

苅谷康太 (KARIYA Kota)

B. 分担執筆

- 苅谷康太. アラビア語史料から見るアフリカ. 永原陽子 (編). 『岩波講座 世界歴史 18——アフリカ諸地域 ~20 世紀』. p. 316. pp. 223–239. 岩波書店. 2022.
- 苅谷康太. 西アフリカのイスラム——どのように拡散・定着したのか. 吉澤誠一郎 (監修) 『論点・東洋史学——アジア・アフリカへの問い 158』. p. 378. pp. 168–169. ミネルヴァ書房. 2022.

C. レフェリー付き学術論文

- Kariya, Kota. Reconsidering the Intellectual Relationship between Muḥammad al-Maghīlī and ‘Uthmān b. Fūdī: A Comparative Examination of *Ajwiba* and *Sirāj al-Ikhwān*. *Islamic Africa*. **13.2**. pp. 251–282. Brill. 2022.

H. 国内学会での活動

- 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 AA 研フォーラム. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所. 2022.3.10. 一般発表. 知識と「暴力」——初期ソコト・カリフ国におけるジハードと奴隷制.

カルティカ, ダイアナ (KARTIKA, Diana)

G. 国際学会での活動

- Partnerships in education: Collaboration, co-operation and co-optation, British Association for International & Comparative Education. エディンバラ大学 (エディンバラ) . 2022.9.13–9.15. 一般発表 (共同). Higher Education, Internationalisation, and SDG 4.7: Current realities and future possibilities. 英語.
- Illuminating the Power of Idealism, Comparative & International Education Society. ミネソタ州ミネアポリス. 2022.04.18–04.22. 一般発表 (共同) . Enduring or Resisting the Developmental State. 英語.

H. 国内学会での活動

- Mobility, Integration and Dilemma in Asian Education. 早稲田大学 (東京都) . 2022.11.24. 招待発表 (共同) . Disability and Inclusive Education in the Context of SDGs. 英語.

川喜田敦子 (KAWAKITA Atsuko)

B. 分担執筆

- 高校歴史教育研究会 (編). 岩井淳・岡田健・川喜田敦子・君島和彦・木村茂光・戸川点・日高智彦・茂木敏夫・安井崇・油井大三郎. 『資料と問いから考える歴史総合』. p. 222. 浜島書店. 2022.
- 川喜田敦子. ドイツ＝ポーランド間の「和解」のはじまり——1960年代の教会の動きを中心に. 波多野澄雄 (編). 『国家間和解の揺らぎと深化 講和体制から深い和解へ』. p. 240. pp. 141-164. 明石書店. 2022.

C. レフェリー付き学術論文

- 川喜田敦子. 移動する人々の時代——第二次世界大戦後のヨーロッパにおける人の移動. 『移民研究年報』. **28**. pp. 19-32. 日本移民学会. 2022.

F. その他の業績

- Ludewig, Alexandra, Kawakita, Atsuko. Online oder In-Country? Interkulturelles Lernen auf Deutsch in Japan und Australien. *LeRuBri. Zeitschrift für Lehrende in Japan*. **56**. pp. 58-67. JapanlektorInnen. 2022.
- 川喜田敦子. 2021年連邦議会選挙から考えるドイツの現在. 『全学共通科目／全学共通カリキュラム言語B連続企画 世界を知ろう！ 2021年度講演会筆録』. pp. 4-23. 立教大学全学共通カリキュラム運営センター. 2022.

G. 国際学会での活動

- Search For East Asian Peace Community: Towards Mutual Understanding Between Nations. Korea University. オンライン開催. 2022.1.12. 招待講演. Umgang mit einer negativen Vergangenheit. Das Interesse für die deutsche Vergangenheitsbewältigung in Japan. ドイツ語.

H. 国内学会での活動

- 「人物で見る第二次世界大戦」研究会. 京都大学人文科学研究所. 京都大学. 2022.11.26. 招待講演. 人物から歴史を見る I・カーショー『ヒトラー』をめぐる考察.
- 第4回 GSI セミナー, 地域文化研究専攻集會. 東京大学大学院総合文化研究科グローバル・スタディーズ・イニシアティブ, 同地域文化研究専攻. 東京大学. 2022.11.10. 移動する人々と国民の輪郭 占領期ドイツにおける他者との接触.
- 第30回地域文化研究専攻シンポジウム「「危機」の時代を生きる——そのとき・今ここ・これから」. 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻. オンライン開催. 2022.6.25. 招待講演. 「危機」が語られる時代——「危機 (Krise)」という語を通してみるドイツ.

I. その他の研究活動

- 高校生と大学生のための金曜特別講座. 東京大学. オンライン開催. 2022.7.15. 招待講演. ナチズムとその記憶 ドイツの学校では歴史をどう学ぶか.

キハラハント愛 (KIHARA-HUNT Ai)

F. その他の業績

- キハラハント愛. 平和の主語. 『群像』. 3月号. pp. 182–184. 2022.
- Kihara-Hunt, A. 書評. Book Review: *Violating Peace: Sex, Aid and Peacekeeping*, by Jasmine-Kim Westendorf. *International Peacekeeping*. 2022.

G. 国際学会での活動

- Academic Council on the United Nations System (ACUNS) Annual Meeting—Evidence-Based Solutions for Intensifying Global Challenges. 2022. ACUNS. UN Office in Geneva/Online. 2022.6.23–6.25. 招待発表・一般発表. Asian Perspectives on the Role of the UN in Intensifying Global Challenges. 英語. 研究発表.
- Academic Council on the United Nations System (ACUNS) Annual Meeting—Evidence-Based Solutions for Intensifying Global Challenges. 2022. ACUNS. UN Office in Geneva/Online. 2022.6.23–6.25. 招待発表・一般発表. Women as Agents or Victims in Conflict and UN Peace Operations. 英語. コメンテーター.
- Academic Council on the United Nations System (ACUNS) Annual Meeting—Evidence-Based Solutions for Intensifying Global Challenges. 2022. ACUNS. UN Office in Geneva/Online. 2022.6.23–6.25. 招待発表・一般発表. Accountability in Global Governance. 英語. 司会.
- Academic Council on the United Nations System (ACUNS) Annual Meeting—Evidence-Based Solutions for Intensifying Global Challenges. 2022. ACUNS. UN Office in Geneva/Online. 2022.6.23–6.25. 招待発表・一般発表. Handbook on Governance. 英語. セクレタリー.

H. 国内学会での活動

- グローバルガバナンス学会第 15 回研究大会 2022. グローバルガバナンス学会. 中京大学名古屋キャンパス. 2022.11.12–11.13. 一般発表. Evolution of Individual Legal Accountability Framework for Sexual Exploitation and Abuse at UN Peace Operations. 日本語. パネリスト.

I. その他の研究活動

- 赤十字国際委員会 (ICRC). 2022 年度国際人道法模擬裁判・ロールプレイ大会. 2022.11.26–12.11. 東京大学チーム. コーチ (優勝). ロールプレイ大会運営委員長.
- 拓殖大学総合演習「国連警察と SSR」. 2022.11.24. 招待講演. 日本語. 講師.
- 東京大学第 73 階駒場祭公開講座「平和の鍵を握る治安部門」. 2022.11.18. 招待講演. 日本語. 講師.
- Workshop on Multidisciplinary Futures of UN Peace Operations. 2022.11.18. University of Reding/Online. ‘UN-AU Development for SEA Accountability’. 英語. 研究発表者.
- Japan Association for Human Security Studies Annual Conference 2022: Human Security in the Age of Growing Militarization. Japan Association for Human Security Studies (JAHSS). 麗澤大学. 2022.11.5–11.6. ‘Violations of International Law in Russia-Ukraine Armed Conflict.’ 英語. パネリスト.

- Hernan Santa Cruz Seminar Series. 国連人権高等弁務官事務所セミナー. マクワイアー大学・東京大学国際法研修研究ハブ共催. オンライン. 2022.11.3. ‘Human Rights-based Economy’. 英語. 企画運営.
- 拓殖大学総合演習「今日の国連の多機能型 PKO」. 2022.10.27. 招待講演. 日本語. 講師.
- UN-Office of the High Commissioner for Human Rights/Human Asia. Model Universal Periodic Review (模擬国連人権理事会普遍的審査大会). 2022.8.8. 東京大学チームコーチ.
- 日本国際平和構築協会セミナー. オンライン. 2022.7.30. 「国連の女性差別撤廃委員会の近況」. 日本語. コメンテーター.
- Essex University–HSP Seminar: Human Rights Colloquium. 駒場キャンパス/オンライン. 2022.7.23. 英語. ‘International Law and Human Rights’. パネリスト・総合司会・企画運営.
- 東京大学「人間の安全保障」プログラム (HSP) セミナー. オンライン. 2022.7.20. 「国際人道法連続セミナー」 #3. 英語. 講師. 企画運営.
- 東京大学「人間の安全保障」プログラム (HSP) セミナー. オンライン. 2022.7.19. 「国際人道法連続セミナー」 #2. 英語. 講師. 企画運営.
- 東京大学「人間の安全保障」プログラム (HSP) セミナー. オンライン. 2022.7.18. 「国際人道法連続セミナー」 #1. 英語. 講師. 企画運営.
- 東京大学「人間の安全保障」プログラム (HSP) セミナー. オンライン. 2022.7.8. “Order in the Bazaar: Law, Norms, and Market Governance in Afghanistan’s Money Exchanger Market”. 英語. 企画運営.
- 東京大学「人間の安全保障」プログラム (HSP) セミナー. オンライン. 2022.6.17. Farhana san seminar. “‘I Had No Will to Live’: Gender, Violence, and Subjectivity Among Rohingya Refugee Women.” 英語. 総合司会・企画運営.
- 東京大学「人間の安全保障」プログラム (HSP) セミナー. オンライン. 持続的平和研究センター共催. 2022.6.12. International Law Hub seminar. “The Importance of Technology in Healthcare: Lessons learned from Thailand during the Covid-19 pandemic”. 英語. 講師.
- 赤十字国際委員会 (ICRC) Regional Virtual Academic Round Table Discussion. オンライン. 2022.5.30. 英語. 招聘専門家.
- Global Peacebuilding Association of Japan seminar: Japan’s Contributions to UN Peace Operations. オンライン. 2022.5.19. 英語. パネリスト.
- 東京大学「人間の安全保障」プログラム (HSP) セミナー. 赤十字国際委員会共催. オンライン. 持続的平和研究センター共催. 2022.5.13. “ICRC Career Seminar”. 英語. 講師・企画運営.
- The University of Tokyo Global Praxis (IHL) Special Seminar series #5. ‘Refugees, Forced Migrants and the Mandate of the UNHCR. Dirk Hebecker’. 2022.3.19. 英語. 総合司会・運営.
- The University of Tokyo Global Praxis (IHL) Special Seminar series #4. ‘Reparative justice through the Trust Fund for Victims at the International Criminal Court’. Motoo Noguchi. 2022.3.19. 英語. 総合司

会・運営.

- The University of Tokyo Global Praxis (IHL) Special Seminar series #3. ‘Investigating Violations of International Humanitarian Law by Domestic Systems: Developing Law and Practice’. Noam Lubell. 2022.3.18. 英語. 総合司会・運営.
- The University of Tokyo Global Praxis (IHL) Special Seminar series #2. ‘Investigating possible violations of International Humanitarian Law’. Françoise J. Hampson. 2022.3.18. 英語. 総合司会・運営.
- The University of Tokyo Global Praxis (IHL) Special Seminar series #1. ‘International Humanitarian Law and Mandate of the ICRC. Regis Savioz’. 2022.3.18. 英語. 総合司会・運営.
- 横浜市立日野南中学校平和学習セミナー. 日野南中学校・オンライン. 2022.2.22. 「平和を構築する」招待講演. 講師.
- Asia Pacific Centre for the Responsibility to Protect. Japan National Dialogue on the Responsibility to Protect. Online. 2022.2.18. ‘R2P and the United Nations’. 英語. 招待講演. スピーカー.
- Humanities Centre Seminar 2022.1.7. ‘Recent shifts in the UN’s Approach to Accountability for Misconduct and Sexual Exploitation and Abuse’. 英語. 司会・スピーカー.
- キハラハント愛. 『『牛久』長文寄稿文』. ドキュメンタリー映画「牛久」映画パンフレット. 2022.1.

木宮正史 (KIMIYA Tadashi)

A. 著書

- 木宮正史. 李元徳 (訳). 『한일관계사 한일 대립은 언제 끝날 것인가. 과연 관계 개선은 가능할까 (韓日関係史 韓日対立はいつ終わるのか、果たして関係改善は可能か)』. p. 320. 에이케이커뮤니케이션즈 (AK コミュニケーション). 2022.

B. 分担執筆

- 木宮正史. 韓国の第20代大統領選挙、尹錫悦新政権と韓国外交、そして日韓関係. 鞠重鎬 (編). 『日韓のあるべき姿——垂直関係から水平関係へ』. p. 381. pp. 41–68. 明石書店. 2022.
- 木宮正史. 중국을 둘러싸는 한일관계: 한국, 한반도에서 본 일본의 대중인식, 정책 (中国をめぐる韓日関係——韓国、韓半島から見た日本の対中認識、政策). 南基正 (編). 『아베시대의 일본의 정치와 외교 (安倍時代の日本の政治と外交)』. p. 300. pp. 157–195. 박문사. 2022.
- 木宮正史. 日韓歴史和解をめぐる政治学——歴史葛藤の抑制メカニズムとその機能不全. 劉傑 (編). 『和解学叢書 5=歴史家ネットワーク 和解のための新たな歴史学——方法と構想』. p. 381. pp. 331–364. 明石書店. 2022.
- 木宮正史, 小林聡明. 序文と収録論文の解説. 木宮正史, 小林聡明. 『執務参考資料 既存論文集 日韓歴史認識問題』. p. 334. pp.7–13. 日本国際問題研究所. 2022.

D. 一般学術論文

- 木宮正史. 日韓関係のダイナミズムと学術協力の可能性. 『学術の動向』. 27.8. pp. 19–22. 日本学術協力財団. 2022.

- 木宮正史. 바이든 대통령의 방한·방일로 보는 국제정세와 그 속에서의 한국과 일본 (바이든大統領の訪韓・訪日から見た国際情勢と、その中で韓国と日本). 『JPI Peace Net』. 2022-09. pp. 1-9. 済州平和研究院. 2022.
- 木宮正史. 尹大統領誕生が示す日韓関係改善の糸口. 『月刊公明』. **198**. pp. 36-41. 2022.
- 木宮正史. 韓国大統領選で政権交代 若年男性の支持得た尹錫悦氏 米中の狭間で問われる政治手腕. 『週刊エコノミスト』. **100.13**. pp. 80-82. 毎日新聞社. 2022.

F. その他の業績

書評・自著紹介

- 木宮正史. なぜ韓国に謝罪が届かないのか. 朴裕河『歴史と向き合う』毎日新聞出版. 2022. に対する書評. 『公明新聞』. 2022.9.19.
 - 木宮正史. 内在的に現在を再考するために. 小野容照『韓国「建国」の起源を探る 三・一独立運動とナショナリズムの変遷』慶應義塾大学出版会. 2022. に対する書評. 『公明新聞』. 2022.4.4.
 - 木宮正史. UTokyo Biblio Plaza. 木宮正史『日韓関係史』(岩波書店、2021年).
- ##### 新聞雑誌コラム・インタビュー
- 木宮正史. 交渉続け「安心供与」を. 『JIJI WEB』(時事通信配信). 2022.11.25. “Japan should hold talks with North Korea to ease tensions, expert says,” *JAPAN TIMES* (2022.12.6.) などに転載.
 - 木宮正史. コラム. 글로벌 In&Out 윤석열외교 6개월을 진단한다. (尹錫悦外交6カ月を診断する). 『ソウル新聞』. 2022.11.23.
 - 木宮正史. コラム. 글로벌 In&Out 북핵에 한일은 어떻게 대응해야 할까. (北朝鮮の核にどのように対応すべきか). 『ソウル新聞』. 2022.10.26.
 - 木宮正史. 『日韓関係史』で大平正芳賞特別賞を受賞して. 『教養学部報』. **639**. 2022.10.3.
 - 木宮正史. コラム. 글로벌 In&Out ‘통일교’와 ‘아베’에 허덕이는 기시다 정부. (「統一教」と「安倍」にあえぐ岸田政府). 『ソウル新聞』. 2022.9.21.
 - 木宮正史. コラム. 글로벌 In&Out ‘하나의 중국’ 문제와 한일의 대응. (「1つの中国」問題と韓日の対応). 『ソウル新聞』. 2022.8.17.
 - 木宮正史. 寄稿. 포스트 아베 시대 한·일 관계 전망과 모색…“역사 문제 대립 너머를 상상해야” (ポスト安倍時代の日韓関係の展望と模索——「歴史問題をめぐる対立をどのように乗り越えるのか想像しなければ」). 『京郷新聞』. 2022.7.28.
 - 木宮正史. コラム. 글로벌 In&Out. 아베 전 총리 사망과 한일 관계 (安倍元首相死亡と韓日関係). 『ソウル新聞』. 2022.7.13.
 - インタビュー 研究室散歩@韓国朝鮮政治研究 研究の原点に民主化運動. 『月刊 東京大学新聞』. **4078**. 2022.7.12.
 - インタビュー 参議院選挙が日韓関係に及ぼす影響. 『毎日経済新聞』. 2022.7.11.
 - インタビュー 転換期の日本 勢いを増す軍備増強論. 『文化日報』. 2022.7.6.
 - 紙上座談会 新国際秩序と韓国の選択. 『파이낸셜뉴스 (ファイナンシャルニュース)』.

2022.6.24.

- インタビュー 韓国日報—讀賣新聞 日韓共同世論調査の結果に関する解説. 『韓国日報』. 2022.6.9.
- 木宮正史. コラム. 글로벌 In&Out 바이든 대통령의 방한·방일과 한일 관계 (バイデン大統領の訪韓・訪日と韓日関係). 『ソウル新聞』. 2022.6.8.
- インタビュー 日本の知韓派木宮正史教授「尹政府対日外交の最初の解題は強制徴用解決」『韓日関係史』を著した木宮正史教授. 『韓国経済新聞』. 2022.4.26.
- 木宮正史. コラム. 글로벌 In&Out 러시아·우크라 문제에 대응하는 한일 차이 (ロシア・ウクライナ問題に対応する日韓の違い). 『ソウル新聞』. 2022.4.20.
- 木宮正史. コラム. 글로벌 In&Out 윤석열 차기 대통령에 거는 기대 (尹錫悦次期大統領にかける期待). 『ソウル新聞』. 2022.3.16.
- インタビュー 韓国大統領選で明らかになった嫌韓保守にとって不都合な真実…「日本はもはや手強い相手ではない. 『週刊FLASH』. 1637. 2022.3.15. pp. 68–69. 2022.
- インタビュー 韓国尹政権へ 識者に聞く 木宮正史東京大学大学院教授. 『西日本新聞』. 2022.3.13.
- インタビュー 韓国大統領選挙と日韓関係に関して. 『韓国日報』. 2022.3.11.
- インタビュー 韓国大統領選挙と日韓関係に関して. 『東亜日報』. 2022.3.11.
- 木宮正史. 識者談話 韓国大統領選挙の結果を受けて. 『共同通信』. 2022.3.10. 『熊本日日新聞』『静岡新聞』『信濃毎日新聞』『東奥日報』. 2022.3.11.
- インタビュー 韓国大統領選挙結果が日韓関係に及ぼす影響に関して. 『聯合ニュース』. 2022.3.10.
- インタビュー 韓国大統領選挙と日韓関係. 『毎日経済新聞』. 2022.3.10.
- 木宮正史. コラム. 글로벌 In&Out. 2022 년 백두, 한일 ‘약속’을 생각한다 (2022年の初頭、韓日の「約束」を考える). 『ソウル新聞』. 2022.2.9.
- インタビュー 北朝鮮の核・ICBM 実験示唆は瀬戸際外交、中国にいらまされたくない. 『日経ビジネス』. 2022.1.21.
- インタビュー 日本から見た韓国大統領選挙. 『韓国日報』. 2022.1.6.
- インタビュー どうする日韓関係. 『共同通信』. 2022.1.3. 『山口新聞』. 2022.1.3.

放送メディアへの出演

- NHK ラジオ R1. マイあさ けさの聞きたい 北朝鮮をめぐる日韓の連携は?. 2022.12.2.
- NHK ラジオ R1. マイあさ けさの聞きたい 危ぶまれる北朝鮮の核実験. 2022.10.14.
- 言論 NPO. 座談会 日韓共同世論調査の結果を踏まえて. 2022.9.1.
- NHK ラジオ R1. マイあさ けさの聞きたい 日韓関係は動くのか. 2022.8.26.
- テレビ東京. ワールドビジネスサテライト 韓国の尹政権と日韓関係. 2022.8.15.
- NHK ラジオ R1. マイあさ けさの聞きたい 韓国新政権で日韓関係の変化は. 2022.6.24.

- NHK ラジオ R1. マイあさ けさの聞きたい 韓国新政権の発足の課題. 2022.5.6.
- VOA (Voice of America) 中国語放送. 韩当选总统重整对外战略 与美中日关系成焦点. 2022.3.18.
- NHK 総合. 視点論点 韓国新大統領の課題. 2022.3.16.
- NHK ラジオ R1. ワールドアイ・どうなる？ 韓国大統領選挙. 2022.3.2.

G. 国際学会での活動

- International Politics of Diplomatic Normalization and the End of the Cold War in Northeast Asia as a Long-Term Process Normalization of Sino-Japanese Diplomatic Relations, South-North Korea Relations, Normalization of South Korea-China Diplomatic Relations. 韓国政治外交史学会, 韓国国立外交院. オンライン. 2022.12.1. 招待. 韓国語.
- 2022 韓日関係学術セミナー. 韓国仙台総領事館, 東北学院大学. 仙台. 東北学院大学. 2022.11.27. 招待.
- 日韓共同プロジェクト「日韓関係の未来を思考するラウンドテーブル」第2回会議. 戸田記念国際平和研究所, 韓国世宗研究所. 東京. 紀尾井カンファレンス. 2022.11.19. 招待講演. 日韓関係の現状をどのように分析、構想するのか？.
- 日韓ジャーナリスト勉強会. 鶴峰財団. 東京. CJ 会議室. 2022.11.2. 招待講演. 日韓関係をどう分析し、構想するのか.
- 日韓国際シンポジウム：2022 年日韓新政権以来の日米韓協力方策と言・産・官・学の課題. 韓日未来フォーラム. オンライン. 2022.10.22. 招待講演. 日韓関係のダイナミズムと学術協力の限界・可能性.
- 日韓の課題解決に向けたシンポジウム「経済・政治外交・文化面における日韓関係のあり方」. 横浜市立大学地域貢献センター, 駐横浜大韓民国総領事館. 横浜. 横浜市立大学金沢八景キャンパス. 2022.10.21. 招待. 対称的・相互競争的關係に変容する日韓——激動する国際關係にどのように対応するのか？.
- Multilateral Cooperation in the Indo-Pacific, International Symposium: Pathways for Future Cooperation between Korean and Japan. National Research Council for Economics, Humanities and Social Science, Korea (NRC). 2022.9.1. 招待. 討論.
- Korean Global Forum for Peace 2022. 韓国政府統一部. オンライン. 2022.8.30. 招待. US-China Strategic Competition and Korea's Choice. 韓国語.
- 국제정세와 한일관계 (国際情勢と韓日関係). 韓国現代日本学会. オンライン. 2022.8.23. 招待講演. 対称相互競争的關係に変容する日本と韓国——北朝鮮核危機、米中対立、ロシアのウクライナ侵攻などの激動期国際關係にどのように対応するのか？. 韓国語.
- 第28次 日韓政策対話. 世宗研究所日本研究センター, 韓国外交部, 日本国外務省. ホテル京王プラザ札幌. 2022.6.16. 招待. 日本側責任者.
- 韓国高麗大学アジア問題研究所研究会. オンライン. 2022.6.3. 招待講演. 非対称的相互補完的關係から対称的相互競争的關係に変容する日韓關係：歴史問題、北朝鮮核危機、米中対立に対

してどのように対応すべきか：『日韓関係史』をめぐって。韓国語。

- 第 200 回東京フォーラム記念大会。東京。ザ・キャピトルホテル東急。2022.5.23。招待講演。韓国の第 20 代大統領選挙、尹錫悦新政権と韓国外交、そして日韓関係。
- 韓国大統領選挙と東アジア情勢。世宗研究所日本研究センター。オンライン。2022.3.25。招待講演。韓国大統領選挙と韓国政治外交の展望、そして日韓関係。
- 韓日関係診断と新たな関係の模索。世宗研究所日本研究センター。オンライン。2022.3.18。招待。討論。韓国語。

H. 国内学会での活動

- アジア政経学会 2022 年度秋季研究大会。アジア政経学会。関西大学吹田キャンパス。2022.11.27。一般発表。自由論題 2「冷戦期アジアの国際関係」の 3 報告に関する討論者。
- 『日朝交渉 30 年史』をめぐって。日朝国交促進国民協会。第一衆議院議員会館多目的ホール。2022.9.6。一般発表。討論。協会理事。
- 国際情勢研究所研究会。国際情勢研究所。東京。国際情勢研究所。2022.6.28。招待講演。韓国新政権による対北朝鮮関係の今後の課題と展望。
- 安全保障研究会。内閣官房。東京。霞山会館。2022.3.14。招待講演。韓国大統領選挙と韓国政治外交の展望。

I. その他の研究活動

講演その他

- インタビュー。私を変えたあの時、あの場所。人々の力で政治が変わっていった。80 年代、韓国への留学。東京大学教養学部駒場グローバル化セッションオフィス。
- 神奈川大学公開講座『アジアの視点』。神奈川大学。横浜。神奈川大学横浜キャンパス。2022.12.2。招待講演。日本にとっての韓国？ 韓国にとっての日本？ 世界にとっての日韓？。
- 世田谷市民大学講座「日本と朝鮮半島——その歴史と現状」。世田谷市民大学。2022.9-12。全 12 回。
- 日本 DFS (Duty Free Shop) 協会経営セミナー講演会。オンライン。2022.3.17。招待講演。韓国大統領選挙と韓国政治外交の展望、そして日韓関係。
- ソウル大学・東京大学冬季ジョイントセミナー。オンライン。2022.2.8。招待講演。The Structural Transformation of South Korea-Japan Relations amid US-China Strategic Rivalries and North Korean Nuclear Crisis。

J. 受賞

- 2022 年度大平正芳賞特別賞。(拙著『日韓関係史』岩波書店。2021.)

佐藤安信 (SATO Yasunobu)

B. 分担執筆

- 佐藤安信。第 3 章「難民と SDGs」。野田真里(編著)。『新型コロナ時代の SDGs』。法律文化

社. 予定.

- 佐藤安信. 「人間の安全保障」からみた「暴力」と「難民」——冷戦後の「アジア」と「日本」. 伊達聖伸・藤岡俊博 (編). 『「暴力」から読み解く現代世界』. pp. 85–97. 2022.

G. 国際学会での活動

- 7月13–16日. リスボン. Global Meeting of Law and Society Association (法社会学会国際会議). 分科会「ビジネスと人権」は脱植民地か、再植民地化か——企業のための「人間の安全保障指標」のアジアからの提言 (代表者: 佐藤安信). 座長.
- 12月8–9日. ハノイ. Conference of Asian Law and Society Association (アジア法社会学会大会). Rule of Law for Access to Justice in Asia: Case Study of VIAC Arbitration and CICC (Chinese International Commercial Court). 報告者, および Asian Approach to Business and Human Rights: Corporate Human Security Index 共同報告者.

I. その他の研究活動

- 1月上旬. タイ、メソットでの難民の聞き取り調査. 12月上旬–中旬. タイ、メソットでの難民の聞き取り調査、ベトナム、ホーチミン市での「ビジネスと人権」にかかる日本企業の聞き取り調査、カンボジアのプノンペン、シームリアップでの人身取引にかかる予備調査.

菅豊 (SUGA Yutaka)

B. 分担執筆

- Suga, Y. Into the Bullring: The Significance of ‘Empathy’ after the Earthquake. Lindahl, C., Foster, D. M., Parker, K. (eds.). *We Are All Survivors: Verbal, Ritual, and Material Ways of Narrating Disaster and Recovery*. p. 174. pp. 27–41. Indiana University Press. 2022.

C. レフェリー付き学術論文

- 菅豊. 民俗学的悲劇——学院派民俗学の世界史縦覧. 『民俗研究』. 2022年第3期 (総第163期). pp. 5–29. 山東大学. 2022.
- 스가 유타카. 중국의 ‘유산’ 정책과 현실의 상극 – 유네스코에서 ‘전통의 담당자’까지 –. 『실천민속학연구』. **39**. pp. 9–24. 실천민속학회. 2022.
- 菅豊. 非物質文化遺産的幻影. 『遺産』. 2021年第1期 (第5輯). pp. 153–177. 南方科技大学. 2022.
- 菅豊. 西方近代日本民俗研究史——十九世紀由英国人主導的日本学及日本 folklore 研究. 『日語学習與研究』. 2022年第6期 (総第223号). pp. 10–23. 对外經濟貿易大学. 2022.

D. 一般学術論文

- 菅豊. デジタル・パブリック・ヒストリー (Digital Public History). 『西洋史学』. **273**. pp. 46–48. 日本西洋史学会. 2022.

G. 国際学会での活動

- アジア共同体論・中日韓民俗文化比較系列講座. 東南大学外国語学院. 東南大学 (南京市) + オ

ンライン. 2022.5.20. 招待講演. 東アジアにおける公共民俗学の展開——公共部門民俗学から公共民俗学へ.

- 제 46 차 실천민속학회 전국학술대회: '21 세기 민속학'의 위치를 묻다. 실천민속학회. 온라인. 2022.8.19. 招待講演. 「慎ましやかな学問」としての民俗学.
- 第十屆博物館研究國際雙年學術研討會 (2022 10th International Biennial Conference of Museum Studies). 財團法人臺灣博物館文教基金會, 國立臺灣博物館, 國家人權博物館, 國立臺灣史前文化博物館, 國立臺灣歷史博物館, 國立臺灣文學館, 國立臺北藝術大學. 國立臺北藝術大學+オンライン. 2022.10.27. 招待講演. 新的『野』的學問: 野的學者與學院研究者協作的可能性與課題.
- 世界錦鯉サミット. 世界錦鯉サミット実行委員会 (新潟県, 長岡市, 小千谷市). 朱鷺メッセ国際会議場 (新潟市). 2022.11.6. 招待講演. 泳ぐ宝石『錦鯉』——その誕生の歴史と魅力について.

H. 国内学会での活動

- 新潟県文化振興議員連盟 9 月定例会講演会. 新潟県文化振興議員連盟. 新潟県庁第 5 委員会室. 2022.9.29. 招待講演. 新潟で生まれた観賞魚——錦鯉の文化的価値.
- 現代民俗学会第 64 回研究会. 現代民俗学会. オンライン. 2022.10.15. 招待講演. 因習化する民俗——現代的価値と伝統的価値との相克に民俗学者はどう向き合うのか?
- ジャパンバードフェスティバル 2022. 我孫子市鳥の博物館、(公財)山階鳥類研究所. アビホール (我孫子市). 2022.11.5. 招待講演. 江戸の鳥の美食学——環境破壊や乱獲がもたらした野鳥食文化の衰退.

杉山清彦 (SUGIYAMA Kiyohiko)

B. 分担執筆

- 杉山清彦. マンジュ大清国の支配構造. 『岩波講座世界歴史 12 東アジアと東南アジアの近世 15~18 世紀』. p. 308. pp. 181-201. 岩波書店. 2022.
- 杉山清彦. 清の国家体制——帝国はどのように統合されていたか. 吉澤誠一郎 (監修). 『論点・東洋史学——アジア・アフリカへの問い 158』. p. 362. pp. 202-203. ミネルヴァ書房. 2022.

F. その他の業績

- 杉山清彦. 解説. 新しい歴史学習の潮流——「歴史を学ぶ」から「歴史で学ぶ」へ. 『地歴・公民科資料 ChiReKo』. 7 (2022 年度 1 学期号). pp. 28-31. 2022.
- 杉山清彦. 訃報. 細谷良夫先生のご足跡と思い出. 『内陸アジア史研究』. 37. pp. 17-23. 2022.
- 杉山清彦. コラム. コロナ禍 VS 東大 Now 第 16 回/対応の司令塔・新型コロナウイルス対策タスクフォース. 『学内広報』. 1556. p. 11. 東京大学広報室. 2022.
- 杉山清彦. コラム. コロナ禍 VS 東大 Now 第 15 回/「1 年遅れの喜び」令和 2 年度新入生歓迎式典大作戦. 『学内広報』. 1555. p. 27. 東京大学広報室. 2022.
- 杉山清彦. コラム. コロナ禍 VS 東大 Now 第 14 回/コロナ禍下の駒場学生相談所の奮闘. 『学

内広報』. 1554. p. 11. 東京大学広報室. 2022.

H. 国内学会での活動

- 第 120 回史学会大会公開シンポジウム「君主号と歴史世界」. 公益財団法人史学会. 東京大学. 2022.11.6. 招待講演. ハン・ハーン・皇帝——中央ユーラシアと東アジアのなかの大清君主号.
- 連続ワークショップ「武人たちのユーラシア——越境・征服・統合」第 1 回「帝国を統べる武人たち」. 2019~2022 年度科学研究費補助金基盤 (A)「前近代ユーラシア世界における広域諸帝国の総合的研究：移動する軍事力と政治社会」主催. オンライン開催. 2022.5.7. 招待講演. 八旗制下のマンジュ旗人と王権——大清帝国を築いた武人の家.

I. その他の研究活動

- 杉山清彦. 取材. 世界史アップデート●モンゴル帝国. 『読売新聞』. 1 月 4 日夕刊 5 面. 2022.

高橋英海 (TAKAHASHI Hidemi)

B. 分担執筆

- Takahashi, H. Syriac Fragments from Turfan at Ryukoku University, Kyoto. Li Tang & Dietmar Winkler (eds.). *Silk Road Traces: Studies on Syriac Christianity in China and Central Asia* (orientalia – patristica - oecumenica 21). p. 423. pp. 223–251. Wien: LIT. 2022.

D. 一般学術論文

- Takahashi, H. The Role of the Cult and Memory of Martyrs in the Survival Strategy of Syriac Christians. *Sophia Journal of Asian, African, and Middle Eastern Studies*. 39. pp. 1–14. 上智大学アジア文化研究所. 2021 (2022.3).

F. その他の業績

- 高橋英海. (コラム) 西アジアのキリスト教をめぐる環境の変容——バルヘブラエウスの生涯を例に. 大黒俊二, 林佳世子 (編). 『岩波講座世界歴史 9 ヨーロッパと西アジアの変容 一—一五世紀』. p. 292. pp. 200–201. 岩波書店. 2022.
- 東京大学教養学部英語部会 (田尻芳樹, 後藤春美, 高橋英海, 武田将明, 吉国浩哉, 佐藤光). 『東大英語リーディング 多元化する世界を英語で読む』. p. 185. 東京大学出版会. 2022.

G. 国際学会での活動

- Takahashi, H. 13um Symposium Syriacum/11e Congrès d'études arabes chrétiennes. Société d'études syriaques. INALCO, Paris. 2022.7.4–8. 一般発表. On Some Recent Discoveries – Other than from Turfan – Relating to Syriac Christianity in Central Asia and China. 英語.
- Takahashi, H. 13um Symposium Syriacum/11e Congrès d'études arabes chrétiennes. Société d'études syriaques. INALCO, Paris. 2022.7.4–8. 一般発表. Syriac-Armenian Relations as Seen from Syro-Armenian (Armenian Garshuni) Manuscripts. 英語.
- Takahashi, H. 13um Symposium Syriacum/11e Congrès d'études arabes chrétiennes. Société d'études syriaques. INALCO, Paris. 2022.7.4–8. 一般発表. Further Notes on the Medical and Pharmaceutical

Works of Barhebraeus. 英語.

高山大毅 (TAKAYAMA Daiki)

B. 分担執筆

- 高山大毅. 元気. 山口輝臣, 福家崇洋 (編). 『思想史講義【明治篇 I】』. p. 327. pp. 305–319. 筑摩書房. 2022.

C. レフェリー付き学術論文

- 高山大毅. 「石鏡」=鏡山詠の展開——徂徠学派の定型表現. 『雅俗』. **21**. pp. 83–97. 雅俗の会. 2022.

G. 国際学会での活動

- 韓国漢文學會第 13 回全国學術大會. 韓国漢文學會. オンライン. 2022.10.28. 日本古文辭派研究——荻生徂徠の散文と奇想. 招待講演.

竹村文彦 (TAKEMURA Fumihiko)

F. その他の業績

- 竹村文彦. エッセイ. セルバンテスの小説に鳴り響く音と音楽. ドン・キホーテとその時代の音楽 (スパニッシュ・プログレッシヴ・バロック 5). メディオ・レジストロ演奏会公演プログラム. 2022.12.22.

H. 国内学会での活動

- 日本イスパニヤ学会第 68 回大会. 日本イスパニヤ学会. 立命館大学衣笠キャンパス. 2022.10.1–2. 組織委員.

伊達聖伸 (DATE Kiyonobu)

B. 分担執筆

- 伊達聖伸. 宗教社会学. 島藺進・奥山倫明 (編). 『いまを生きるための宗教学』. p. viii + p. 315. pp. 33–64. 丸善出版. 2022.
- 伊達聖伸. 「宗教的なもの」から広がるもうひとつのグローバル・スタディーズ. 國分功一郎・清水光明 (編). 『地球的思考——グローバル・スタディーズの課題』. p. 428. pp. 285–314. 水声社. 2022.
- 伊達聖伸. テロリズム、黄色いベスト運動、聖職者の性的虐待——現代フランスの「暴力」の諸相を「権力」関係の歴史から読む、「暴力」の乱反射. 伊達聖伸・藤岡俊博 (編). 『「暴力」から読み解く現代世界』. p. 201. pp. 31–46, 113–121. 東京大学出版会. 2022.

C. レフェリー付き学術論文

- 伊達聖伸. 聖職者の性的スキャンダルを通して見るフランス・カトリック教会の現状——制度的権威の失墜とカリスマ的権威の失墜. 『上智ヨーロッパ研究』. **13** (2021 年度). pp. 113–132.

2022.

D. 一般学術論文

- 伊達聖伸. フランスにおけるイスラーム言説と研究の諸相——政治・社会・思想・日常生活. 『東京大学宗教学年報』. **XXXIX** (2021 年度) . pp. 22–45. 2022.

F. その他の業績

- 伊達聖伸. 事典項目執筆. ライシテ. キリスト教文化事典編集委員会 (編) . 『キリスト教文化事典』 . pp. 570–571. 丸善. 2022.
- 伊達聖伸. 書評. デュルケムとユダヤ的なもの——類似の還元主義的実体化も感じさせる問題提起: 平田文子『デュルケム世俗道徳論の中のユダヤ教——ユダヤの伝統とライシテの狭間で』 . 『週間読書人』 . 2022.4.22. 2022.
- 伊達聖伸. 書評. 奥井智之『宗教社会学』東京大学出版会, 2021 年. 『宗教研究』 . **403**. pp. 166–172. 2022.
- 伊達聖伸. 書評. 2022 年上半期の収穫から. 『週間読書人』 . 2022.7.22. 2022.
- 伊達聖伸. コラム. 生誕 100 年の 3 人の日本人 3・11 をどうとらえたか. 『中外日報』 . 時事評論. 2022.3.11.
- 伊達聖伸. コラム. グルノーブルのブルキニ 自由か抑圧か二つのライシテ. 『中外日報』 . 時事評論. 2022.5.27.
- 伊達聖伸. コラム. フランス反セクト法の現在 日本「直輸入」は難しいが……. 『中外日報』 . 時事評論. 2022.9.9.
- 伊達聖伸. コラム. 個人を搾取する宗教団体を法的に罰する…旧統一教会問題で「フランスの反セクト法」を参照すべき理由. 『プレジデントオンライン』 . 2022.10.17.
- 伊達聖伸. コラム. 「アバヤ」と「カミス」——再燃する宗教的衣装の問題. 『中外日報』 . 時事評論. 2022.12.9.

G. 国際学会での活動

- Regards croisés en droit constitutionnel et droit économique, Colloque 5^e Regards croisés du Réseau Européano-japonais NihonEuropA. トゥール大学 (ハイブリッド) . Tours. 2022.10.24. 招待講演. Une réflexion sur la place de la religion dans le monde politique japonais à la lumière de l'actualité. フランス語.

H. 国内学会での活動

- 日本宗教学会. 愛知学院大学 (ハイブリッド) . 2022.9.9. 「宗教」概念の批判的検討から出発して——ライシテ研究の立場から (公開シンポジウム) .
- 慶應義塾大学フランス公法研究会. 慶應義塾大学 (ハイブリッド) . 2022.11.6. 共和国の公共空間における宗教——ライシテの変容とセクト、イスラーム、カトリック.
- 東京大学藝文書院・立命館大学加藤周一現代思想研究センター共催イベント「日本の知識人、その宗教と周辺——鶴見俊輔・加藤周一・林達夫」. 東京大学 (ハイブリッド) . 2022.12.5. 鶴

見俊輔における宗教——はみだしの技法.

田中創 (TANAKA Hajime)

F. その他の業績

- 田中創. 書評論文. Carlos Machado, *Urban Space and Aristocratic Power in Late Antique Rome: AD 270–535*, pp. xix + 317, Oxford, Oxford UP, 2019, \$99.00. ISBN 9780198835073. 『西洋古典学研究』. 69. pp. 158–160. 日本西洋古典学会. 2022.

H. 国内学会での活動

- 第30回地域文化研究専攻主催公開シンポジウム: 「危機」の時代を生きる——そのとき・今ここ・これから. 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻. オンライン開催. 2022.6.25. コメンテーター. ある古代史家にとっての Crisis.

I. その他の研究活動

- 田中創. 日本西洋古典学会ホームページ コラム・Q&A コーナー. ラテン語略号について. 日本西洋古典学会ホームページ. 2022.4.27. <https://clsoc.jp/QA/2022/20220427.html>.

棚瀬あずさ (TANASE Azusa)

G. 国際学会での活動

- Coloquio Dariano 2022. Escuela de la Lengua Española Momotombo. オンライン開催. 2022.1.18. 招待講演. Ars poetica de Rubén Darío: Teoría y metapoésia. スペイン語.

谷垣真理子 (TANIGAKI Mariko)

B. 分担執筆

- 谷垣真理子. 「見える」暴力と「見えない」暴力——香港の二〇一九年大規模抗議活動を題材に. 藤岡俊博・伊達聖伸編. 『「暴力」から読み解く現代世界』. p. 208. pp. 47–60. 東京大学出版会. 2022.
- 谷垣真理子. 消費され輸出される文化——グローバル化とローカル化のはざままで. 園田茂人編. 『はじめて出会う中国 (改訂版)』. p. 202. pp. 118–133. 有斐閣. 2022.
- 谷垣真理子. 中国人は世界をめざす——華人ディアスポラの現在. 園田茂人編 『はじめて出会う中国 (改訂版)』. p. 202. pp. 137–151. 有斐閣. 2022.
- Tanigaki, M. Introduction. Tanigaki, M. (ed.). *Japan and Asia: Business, Political and Cultural Interactions*. p. 292. pp. 1–5. Springer, Singapore. 2022.
- Tanigaki, M. The Adoption of Japan's Experience in Asia: A Case Study of the Police System of Indonesia. Tanigaki, M. (ed.). *Japan and Asia: Business, Political and Cultural Interactions*. p. 292. pp. 7–41. Springer, Singapore. 2022.
- Tanigaki, M. The Formation of Chinese Networks: An Analysis of a Hong Kong Family's Reunion

Activities. Tanigaki, M. (ed.). *Japan and Asia: Business, Political and Cultural Interactions*. p. 292. pp. 227–247. Springer, Singapore. 2022.

- Tanigaki, M. Conclusion. Tanigaki, M. (ed.). *Japan and Asia: Business, Political and Cultural Interactions*. p. 292. pp. 283–287. Springer, Singapore. 2022.

E. 翻訳

- 谷垣真理子・青木正子（監訳），関品方（著書）．対決——君はなぜ殺意を抱くのか. p.281. 全ページ監訳. モリモト印刷. 2022.

田原史起 (TAHARA Fumiki)

C. レフェリー付き学術論文

- Tahara, F. Heteronomous rationality and rural protests: Peasants' perceived egalitarianism in post-taxation China. *China Information*. OnlineFirst. 2022. <https://doi.org/10.1177/0920203X221108994>.

D. 一般学術論文

- 田原史起. 都市=農村間の人的環流——集団化時期中国の『交叉地帯』をめぐる. 『ODYSSEUS 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻紀要』. **26**. pp. 93–113. 2022.

F. その他の業績

- 田原史起. 書評. 村岡伸秋『中国伝統農村社会の解体過程』. 『中国研究月報』. **893**. pp. 42–44. 2022.
- 田原史起. 序言. 冯川著《“浑沌”之治：中国农村基层治理的基本逻辑（1980–2015）》. p.288. 北京：中国社会科学出版社. pp. 1–4. 2022.

張政遠 (CHEUNG Ching-yuen)

A. 著書

- 張政遠. 『物語與日本哲学』. p. 264. 五南出版社. 2022.

B. 分担執筆

- 張政遠. 御進講と日本哲学. 廖欽彬, 伊東貴之, 河合一樹, 山村奨（編）. 『東アジアにおける哲学の生成と発展』. p. 886. pp. 544–558. 法政大学出版局. 2022.
- 張政遠. 天災と人禍をわすれないために. 東アジア藝文書院（編）. 『文学・哲学・感染症』. p. 326. pp. 185–213. 論創社. 2022.
- Cheung Ching-yuen. An Inquiry into the Way: Beginning from Kōsaka Masaaki's "Hermeneutical Structure of Michi. Wang, J., Kwok, S. (eds.). *Heidegger in China and Japan*. p. 254. pp. 215–226. Königshausen & Neumann. 2022.
- Cheung Ching-yuen. Is Nishida Kitaro an Eastern Philosopher?. Matsumaru, H., Arisaka, Y., Schultz, L. (eds.). *Tetsugaku Companion to Nishida Kitaro*. p. 240. pp.131–150. Springer. 2022.
- 張政遠. 儒学から考える「悪」——香港そして被災地. 東アジア藝文書院（編）. 『私たちは世

界の「悪」にどう立ち向かうか』. p. 369. pp. 190–207. トランスビュー. 2022.

- 張政遠. コロナ禍のなかで「危機の哲学か哲学の危機か」を読む. 廖欽彬, 河合一樹 (編). 『危機の時代と田辺哲学』. p. 474. pp. 20–23. 法政大学出版社. 2022.

D. 一般学術論文

- 張政遠. 井上哲次郎與東亞哲學的起源. 『南開日本研究』. 第1巻. p. 122–132. 天津人民出版社. 2022.

E. 翻訳

- 張政遠 (訳). 阮南 (著). 国境を越えて旅する知——二〇世紀初頭のベトナム、そして日本と中国からの出版物. 『東アジアにおける哲学の生成と発展』. pp. 763–800. 法政大学出版社. 2022.

F. その他の業績

- 張政遠. 推薦序. 『聆聽的力量』. pp. 20–23. 心靈工坊. 2022.

G. 国際学会での活動

- Congreso Estética Ambiental y Perspectivas del Habitar. 2022. Universidad Nacional Autónoma de México (オンライン). 2022.3.10. 一般発表. Terruño and the crisis of desterramiento. 英語.
- 日中韓地域協力と発展フォーラム: 地域経済一体化における日中韓及び東アジア地域協力. 2022. 北京外国語大学 (オンライン). 2022.5.27. 一般発表. 巡礼と物語——災害の記憶をめぐる. 中国語.
- Coloquio Internacional de Estudios de Arte y Cultura. Iberoamérica-Japón. 2022. Panel 6. Images of migration in photography and film: Japan and Latin America (オンライン). 2022.8.19. 一般発表. From the “promised land” to the “green jail”: The case of Okinawa. 英語.
- 台灣哲學學會. 2022. 女性主義論壇. 国立政治大学 (オンライン). 2022.12.17. 一般発表. 聞得大君の過去、現在和未來. 中国語.
- 台灣中國哲學會. 2022. 第七場論文發表. 天主教輔仁大學 (オンライン). 2022.12.18. 一般発表. 人作為物語動物. 中国語.

H. 国内学会での活動

- EAA 沖縄研究会シンポジウム (オンライン). 2022.2.6. 一般発表. トランスユーラシアの言語拡散と東北アジアの農耕民移住——「三角測量」の死角を南島の視点から考える.
- 第2回東アジア間文化現象学会議 (オンライン). 2022.2.26. 一般発表. 「形なきものの形を見ること」と「声なきものの声を聴くこと」.
- EAA 第8回「民俗学×哲学」研究会. 東みよし町. 2022.6.18. 一般発表. 書院とまちづくり.
- 哲学論集研究会. 弘前大学. 2022.11.21. 講演. 風土、そして故郷喪失の危機——香港・福島・ウクライナをめぐる.

土屋和代 (TSUCHIYA Kazuyo)

B. 分担執筆

- 和泉真澄, 坂下史子, 土屋和代, 三牧聖子, 吉原真里. 『私たちが声を上げるとき——アメリカを変えた 10 の問い』. p. 286. 集英社新書, 2022.
- 土屋和代. ブラック・フェミニズムとインターセクショナリティ——人種・階級・ジェンダー・セクシュアリティ. 藤永康政, 松原宏之 (編). 『「いま」を考えるアメリカ史』. ミネルヴァ書房. p. 291. pp. 227–253. 2022.
- Tsuchiya, Kazuyo. The 1992 LA Uprising and the Politics of Representation: Multilayered Memories in *Twilight: Los Angeles, 1992*. Takezawa, Yasuko, and Akio Tanabe (eds.). *Race and Migration in the Transpacific*. p. 280. pp. 201–230. Routledge. 2022.

D. 一般学術論文

- 土屋和代. 『表現という剣』——ワッツ・ライターズ・ワークショップとロスアンジェルズにおける制度的人種差別との闘い. 『大原社会問題研究所雑誌』. **761**. pp. 49–62. 大原社会問題研究所. 2022.

E. 翻訳

- 兼子歩, 坂下史子, 土屋和代 (訳). ダイナ・レイミー・ベリー, カリ・ニコール・グロス (著). 『アメリカ黒人女性史——再解釈のアメリカ史・1』. p. 361. 勁草書房. 2022.

F. その他の業績

- 土屋和代. 解説. 「鳥籠」を解体し、異なる未来を築くために——現代アメリカにおける刑罰国家の拡大と脱・福祉国家化を考える. アイリス・マリオン・ヤング (著). 岡野八代・池田直子 (訳). 『正義への責任』. pp. 359–368. 岩波現代文庫. 2022.

H. 国内学会での活動

- 土屋和代. 報告. 黒人女性史叙述の最前線——ベリー&グロス著『アメリカ黒人女性史』の翻訳書刊行によせて. 兼子歩, 坂下史子と共同報告. 黒人研究学会例会. オンライン開催. 2022.10.15.

I. その他の研究活動

- 日本アメリカ史学会運営副代表 (～2022.9), 運営代表 (2022.9～現在)
- ジェンダー史学会常任理事, 大会企画委員
- アメリカ学会理事, 清水博賞選考委員

筒井賢治 (TSUTSUI Kenji)

F. その他の業績

- 荒井献・大貫隆・小林稔・筒井賢治編訳. 『新約聖書外典 ナグ・ハマディ文書抄』. p. 510. 岩波書店 (岩波文庫). 2022.

鶴見太郎 (TSURUMI Taro)

B. 分担執筆

- 鶴見太郎. 人種・民族についての悪い理論. 東京大学東アジア藝文書院編. 『私たちは世界の「悪」にどう立ち向かうか』. pp. 83–109. トランスビュー. 2022.

C. レフェリー付き学術論文

- Taro Tsurumi. How Hybrid? Inter-Ethnic Relationships within the Self of Jewish Liberals in Tsarist Russia. *Nations and Nationalism*. **28.3**. pp. 877–893. 2022.

D. 一般学術論文

- 鶴見太郎. イスラエルが繁栄する陰で——リベラルな国際秩序の非リベラルな参加要件. 『世界』. 2022.12.

F. その他の業績

- 鶴見太郎. ユダヤ人と被差別部落. 『部落解放』. **823**. pp. 66–69. 2022.
- Taro Tsurumi. Book review: *Vanessa Rampton. Liberal Ideas in Tsarist Russia: From Catherine the Great to the Russian Revolution*. *H-Net: Humanities and Social Sciences*. Online.

G. 国際学会での活動

- Taro Tsurumi. Inter-ethnic Relations in Late Imperial Russia Memorized: Pogroms as a Background of the Zionist Perception of Arab Riots/Uprisings in Palestine. 54th Annual Convention, Association for Slavic, East European, and Eurasian Studies (ASEEES). Nov 13, 2022. Chicago.
- Taro Tsurumi. Carrying over of Memory: Pogroms in Ukraine during the Civil War and Riots/Uprising in Palestine in the 1920s. History from Below: Microhistorical Approaches to the History of East European Jewry. Vilnius, Lithuania. Jul 4, 2022.
- Taro Tsurumi. Carrying over of Memory: Pogroms in Ukraine during the Civil War and Riots in Palestine in the 1920s. 38th Annual Conference of the Association for Israel Studies. Jun 28, 2022.

I. その他の研究活動

- ロシア史研究会編集委員
- 日本ユダヤ学会理事・会計担当
- 日本中東学会評議委員

外村大 (TONOMURA Masaru)

B. 分担執筆

- 外村大. 在日朝鮮人への暴力——その歴史から考える. 伊達聖伸・藤岡俊博 (編). 『「暴力」から読み解く現代世界』. p. 208. pp. 99–109. 東京大学出版会. 2022.
- 外村大. はしがき——歴史問題と市民の活動が作り出す和解. 外村大 (編). 『和解をめぐる市民運動の取り組み——その意義と課題』. p. 332. pp. 9–24. 明石書店. 2022.
- 도노무라 마사루 (外村大). 역사로서 『계간삼철리』 — 시대의규정성과 현상변혁의모색 (歴

史としての『季刊三千里』——時代の規定性と現実変革の模索). 翰林大日本学研究所. 내과하는 국민국가 가교하는 동아시아 「계간삼천리」 1981 (内破する国民国家 架橋する東アジア 『季刊三千里』 1981). p. 445. pp. 39–58. 学古房. 2022.

C. レフェリー付き学術論文

- 外村大. 娼妓等周旋業と慰安婦の要員確保——日本内地と朝鮮との比較. 『龍谷大学経営学論集』. **61.2**. pp. 25–46. 龍谷大学経営学部. 2022.

D. 一般学術論文

- 外村大. 歴史としての戦後補償運動. 『抗路』. **9**. 抗路編集委員会. pp. 2–7. 2022.

F. その他の業績

- 外村大. 書評. 松下佳弘『朝鮮人学校の子どもたち 戦後在日朝鮮人教育行政の展開』. 『日本の教育史学』. **65**. pp. 170–173. 教育史学会. 2022.

G. 国際学会での活動

- GSI Caravan International Conference, Public Sphere and Diversifying Views of History: Memories and Reconciliation in Europe and Asia. Center for German and European Studies at the University of Tokyo, Komaba. オンラインで開催. 2022.11.5. 一般発表. 「和解」はなぜ困難なのか? 慰安婦問題を再考する. 日本語.

H. 国内学会での活動

- 2022 在日同胞社会リーダーフォーラム 東京本部組織幹部研修会. 在日本大韓国民団東京地方本部. 神奈川県箱根町箱根湯本富士屋ホテル. 2022.12.11. 招待講演. 植民地支配下の在日韓国人の歴史——東京を中心に.
- 「笹の墓標」全国巡回展講演会. 笹の墓標再生実行委員会. 京都府京都市本願寺聞法会館. 2022.10.23. 招待講演. 強制連行・強制労働の歴史、つながり回復としての歴史実践.
- 在日本韓国民団鳥取県本部第 62 回在日講座 やり残した戦後〈民主化と在日〉. 在日本韓国民団鳥取県本部. 鳥取県鳥取市. 2022.10.22. 招待講演. 在日コリアンの戦後史から考える現代日本の課題.
- 「笹の墓標」東京巡回展講演会. 笹の墓標再生実行委員会. 東京都中央区築地本願寺. 2022.10.8. 招待講演. つながり回復としての歴史実践.
- ヘイト団体による歴史の改ざんをとめよう! ねりま集会. ヘイトスピーチ許さない・練馬ほか. 東京都練馬区区民・産業プラザ研修室. 2022.8.27. 招待講演. 歴史意識の現在と朝鮮人強制連行.

I. その他の研究活動

- 外村大. 項目執筆. 在日コリアン. 岩城卓二ほか(編). 論点・日本史学. p. 371. pp. 330–331. ミネルヴァ書房. 2022.
- 外村大. 座談会参加. 水野直樹・文京洙・殷勇基・柳赫秀・外村大. 【座談会】再び『在日』について考える. 『エトランデュテ』. **4**. 在日本法律家協会. 2022.

- 外村大. Web 記事. おさらい日本の近現代史——「日本」と東アジアの関係を読み解くために 第17回 在日朝鮮人の歴史(1)——1945年まで. Web 日本評論. 2022.

中野耕太郎 (NAKANO Kotaro)

D. 一般学術論文

- 中野耕太郎. カラーラインの形成と「新移民」——20世紀前半のアメリカ人種社会. 特集 アメリカの構造的差別を問う——歴史とその実態(1). 『大原社会問題研究所雑誌』. 761. pp. 4-20. 2022.3.

F. その他の業績

- 中野耕太郎. ポスト・トゥルース時代の歴史認識——米国「歴史戦争」から1619プロジェクト論争へ(大会報告梗概). 『歴史評論』. 871. pp. 56-58. 2022.11.
- 中野耕太郎. 人はなぜ戦争をするの?——第2次世界大戦をひもとく(インタビュー記事:小貫友里記者). 『朝日小学生新聞』. 第3面. 2022.7.9.
- 中野耕太郎. 特集にあたって(特集 高木八尺 その学問と社会活動——CPAS 高木八尺デジタルアーカイブ公開に寄せて). 『アメリカ太平洋研究』. 22. pp. 5-6. 2022.3.

H. 国内学会での活動

- 中野耕太郎. ポスト・トゥルース時代の歴史認識——米国「歴史戦争」から1619年プロジェクト論争へ. 歴史科学協議会第56回大会. 中京大学. 2022.12.3. 招待講演.
- 中野耕太郎. 19世紀末の危機と「アメリカの世紀」の胎動——「社会的なもの」をめぐる闘争から例外主義の再編へ. 第30回地域文化研究専攻主催 公開シンポジウム:「危機」の時代を生きる. オンライン. 2022.6.25. 招待講演.

I. その他の研究活動

- 藤原辰史・中野耕太郎. 特別対談:危機の時代の視点——アメリカ史に学ぶ. 朝日カルチャーセンター. オンライン. 2022.1.21.
- 『西洋史学』(日本西洋史学会). 編集主任幹事(2022年3月まで).

中村元哉 (NAKAMURA Motoya)

A. 著書

- 中村元哉ほか. 『中華圏の戦後史』. p. 276. 東京大学出版会. 2022.
- 中村元哉・劉傑. 『超大国・中国のゆくえ——文明観と歴史認識』第1巻. p. 231. 東京大学出版会. 2022.

B. 分担執筆

- 中村元哉. 中華民国における民主主義の模索. 永原陽子・吉澤誠一郎(編). 『岩波講座世界歴史20——二つの大戦と帝国主義 I 20世紀前半』. p. 287. pp. 109-138. 岩波書店. 2022.

F. その他の業績

- 中村元哉. おわりに. 実証研究の格差が広がっている可能性はないか?. 『現代中国』別冊 web 版. pp. 35–36. 日本現代中国学会. 2022.
- 中村元哉. 書評. 金子肇『近代中国の国会と憲政——議会専制の系譜』. 『史学雑誌』. **131.10**. pp. 83–87. 史学会. 2022.
- 中村元哉ほか. 高校歴史教科書. 『詳解歴史総合』. p. 246. 東京書籍. 2022.
- 中村元哉ほか. 高校歴史教科書. 『新選歴史総合』. p. 222. 東京書籍. 2022.

G. 国際学会での活動

- 第11回「中国当代史研究」. 「中国当代史研究」国際ワークショップ. 東洋文庫(東京). 2022.11.26. 中国語. 日本側代表主催者兼総合討論司会.
- 科研基盤 A 研究会「中国の改革開放萌芽期の再検討——メディア空間からみた旧東欧との分岐」. 科研基盤 A (代表・中村元哉). 東京大学(東京). 2022.11.5. 英語. 主催者.
- 冷戦下における日本と中華圏の人物交流史(第2回). 東洋文庫国際シンポジウム. 東洋文庫(東京). 2022.8.29. 中国語. 主催者兼総合司会.

H. 国内学会での活動

- 日本学術会議公開シンポジウム「変容する現代世界と歴史認識・歴史教育の課題」. 日本学術会議史学委員会歴史認識・歴史教育に関する分科会. 日本学術会議(東京)〔オンライン開催〕. 2022.10.2. 開催運営事務局兼討論セッション司会.
- 中国社会科学学会 2022 年度全国大会シンポジウム「近代メディアは中国社会に何をもたらしたのか?」. 中国社会科学学会. 東京大学(東京)〔オンライン開催〕. 2022.7.10. 主催者兼総合司会.
- 第30回地域文化研究専攻公開シンポジウム『『危機』の時代を生きる——そのとき・今ここ・これから』. 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻. 東京大学(駒場)〔オンライン開催〕. 2022.6.25. 報告者. 地域研究を支える実証研究の危機とその打開——中国近現代史研究を事例に.
- 日本学術会議第25期史学委員会「歴史認識・歴史教育」に関する第4回分科会. 日本学術会議第25期史学委員会「歴史認識・歴史教育」. 日本学術会議(東京)〔オンライン開催〕. 2022.3.26. 報告者. なぜ歴史認識なのか?——高校生との交流・対話から現状の論点を考える.

I. その他の研究活動

- 『現代中国』別冊 web 版「特集：大きく変化する中国をどう研究するのか」. 日本現代中国学会. 2022.12. 企画責任者.
- NHK (E テレ) 高校講座「歴史総合」. NHK (東京). 2022.11.2. 監修・出演. 戦後世界の船出とアジアの再編.
- 高大連携歴史教育. 大阪府立東高校(大阪). 2022.10.19. 講評. 総合的な探究の時間——坂本龍馬/日中戦争と第二次世界大戦など.
- NHK (E テレ) 高校講座「歴史総合」. NHK (東京). 2022.10.5. 監修・出演. 国際協調体制の瓦

解.

- 『現代中国』第96号「小特集：近現代中国・台湾をめぐる政治思想史研究の現在」. 日本現代中国学会. 2022.9.30. 企画責任者.
- NHK (Eテレ) 高校講座「歴史総合」. NHK (東京). 2022.9.21. 監修・出演. 国際協調体制の変容.
- 高大連携歴史教育. 静岡県立浜松西高校 (浜松). 2022.9.6. 講演. なぜ歴史教育は必要なのか? ——中国研究から.
- 高大連携歴史教育. 愛知県立明和高校 (名古屋). 2022.7.28. 講演. 近現代中国研究の最前線から世界を読み解く——なぜ歴史認識と歴史教育が大切なのか?.
- 高大連携歴史教育. 三重県立飯南高校 (松阪). 2022.7.12. 講演. なぜ歴史教育は必要なのか? ——中国研究から.
- 高大連携歴史教育. 京都橘中学校・高校 (京都). 2022.6.15. 講演. なぜ歴史教育は必要なのか? ——中国研究から.
- 「国際漢学」集中講義. 政治大学 (台北) [オンライン開催]. 2022.3.14. 依頼講演. 日本的近現代中国政治思想論——從戦前到现在. 中国語.
- 「国際漢学」集中講義. 政治大学 (台北) [オンライン開催]. 2022.3.14. 依頼講演. 美蘇冷戦下香港与台湾的自由主義. 中国語.
- 第45回一橋／椋山哲学フォーラム. 椋山女学園大学 (名古屋) [オンライン開催]. 2022.2.23. 報告. 中国の「民主」概念から尊厳を考える.
- 高大連携歴史教育. 愛知県立明和高校 (名古屋) [オンライン開催]. 2022.2.8. 講演. なぜ歴史教育は必要なのか? ——中国研究から.
- 高大連携歴史教育. 愛知県立明和高校 (名古屋) [オンライン開催]. 2022.2.8. 講演. 東京大学で何にどのように挑戦できるのか? ——世界最前線の中国研究から.

西川杉子 (NISHIKAWA Sugiko)

橋川健竜 (HASHIKAWA Kenryu)

F. その他の業績

- 橋川健竜. 高木の著作との関連において. 『アメリカ太平洋研究』. 22. pp.47-51. 東京大学アメリカ太平洋地域研究センター. 2022.3.
- Hashikawa, Kenryu. Editor's Introduction. *The Japanese Journal of American Studies*. 33. pp. 1-3. アメリカ学会. 2022.

浜田華練 (HAMADA Karen)

A. 著書

- 浜田華練. 一なるキリスト・一なる教会——ビザンツと十字軍の狭間のアルメニア教会神学. p. 292. 知泉書館. 2022.

D. 一般学術論文

- Hamada, K. An Armenian Manuscript in Japan. *Arevelaasiakan gitut'yunner* (Eastern Asian Studies). 5. pp. 58–63. Arevelagitut'yan institut. Hayastani hanrapetut'yan gitut'yunneri azgayn academia (Institute of Oriental Studies. National Academy of Sciences of the Republic of Armenia). 2022.

F. その他の業績

- 浜田華練. 文庫版解説. 「人間の顔をしたキリスト教」を求めて. 森安達也『東方キリスト教の世界』. ちくま学芸文庫. p. 416. pp. 383–398. 筑摩書房. 2022.

G. 国際学会での活動

- XIII Symposium Syriacum et XIe Congrès d'études arabes chrétiennes. Comité d'organisation du XIII Symposium Syriacum et du XI Congrès d'études arabes chrétiennes. Paris. Institut National des Langues et Civilisations Orientales. 2022.7.4–9. 一般発表. Syriac Hagiographies 'Translated' by Nersēs Šnorhali: Syro-Armenian Cultural Interactions and Development of Armenian Literature in the 12th Century. 英語.
- International conference "Armenia-Japan: Past, Present and Perspectives of Future." Armenian-Japanese Scientific and Cultural Union "Arumenia-Nippon." Yerevan. National Academy of Sciences of the Republic of Armenia. 2022.10.6–7. 招待講演 (オンライン). An Armenian Manuscript in Japan. 英語.

H. 国内学会での活動

- 第22回東方キリスト教学会大会. 東方キリスト教学会. 東京大学駒場キャンパス. 2022.8.24–25. 一般発表. 聖セルギウスから聖サルキスへ——12世紀アルメニア教会における聖人伝の受容.

速水淑子 (HAYAMI Yoshiko)

F. その他の業績

- 速水淑子. エッセー. 芸術家と社会. 『教養学部報』. 641. 東京大学教養学部. 2022.12.1. p. 4.

H. 国内学会での活動

- 第4回ジェンダー研究会. 横浜市立大学都市社会文化研究科. オンライン開催. 2022.3.10. 一般発表. アマゾネス像とジェンダー規範——18/19世紀移行期ドイツ語圏文学を中心に.

I. その他の研究活動

- 史料読解ワークショップ言説篇. 歴史家ワークショップ. オンライン開催. 2022.2.19. 報告・講師. 文学テキストと歴史をどう繋ぐか——クライスト『聖ドミンゴ島の婚約』(1811)を例に考える.

原和之 (HARA Kazuyuki)

B. 分担執筆

- 原和之. 精神分析の「幼年期の終わり」. 藤山直樹・十川幸司編. 『精神分析のゆくえ——臨床知と人文知の闘』. pp. 43–50. 金剛出版. 2022.

D. 一般学術論文

- 原和之. 悲劇・弁証法・トポロジー——ラカンによる「パスカルの賭」(上). 『思想』. **1175**. pp. 102–122. 岩波書店. 2022. 3.
- 原和之. 「想定」としての「構築」——「「分析」とは何の謂いか」への補遺. 東京大学総合文化研究科地域文化研究専攻紀要『Odysseus』. **26**. pp. 115–141. 2022.3.
- 原和之. 悲劇・弁証法・トポロジー——ラカンによる「パスカルの賭」(中). 『思想』. **1178**. pp. 59–84. 岩波書店. 2022.6.
- 原和之. 悲劇・弁証法・トポロジー——ラカンによる「パスカルの賭」(下). 『思想』. **1179**. pp. 83–110. 岩波書店. 2022.7.

G. 国際学会での活動

- Cornell Psychoanalysis Reading Group Conference “The Objects in/of Psychoanalysis”. Cornell University Psychoanalysis Reading Group. Cornell University. 2002.9.23–24. 一般発表. The Problem of the Object in the Light of the Lacan’s Dialectic of Desire. 英語.
- Kazuyuki Hara, Théorie, dialectique, fantasme: La sexualité comme le prolongement des “théories sexuelles infantiles” par d’autres moyens. Institut humanités, sciences et sociétés (IHSS)/Société et humanité/Université Paris Cité. Université Paris Cité. 2022.11.22. 招待講演. フランス語.

H. 国内学会での活動

- パネルディスカッション「精神分析と哲学の悩ましい関係」. 東京精神分析サークル／哲学の実験オープンラボ (大阪大学未来共創センター) /早稲田大学大学院文学研究科表象・メディア論コース. オンライン. 2022.3.13. ディスカッション.
- 日仏哲学会 2022 年春季大会第二部会. 日仏哲学会. オンライン. 2022.3.19. 司会.
- 第 62 回 HMC オープンセミナー. 東京大学ヒューマニティーズセンター. オンライン. 2022.4.15. 招待講演. ジャック・ラカンによる「人間」.
- 第 83 回 HMC オープンセミナー. 東京大学ヒューマニティーズセンター. オンライン. 2022.9.30. 招待講演. ジャック・ラカンによる「言語」.
- 学際的ワークショップ『精神分析の知のリンクにむけて』第 7 回「21 世紀のエディプス——われわれはまだこの概念を必要とするのか?」. 小寺精神分析研究財団. 市谷 TKP カンファレンスセンター. 2022.10.02. 招待講演. 《エディプス》と「性別化」、あるいは異なった手段による「幼児の性理論」の継続としての性差.
- 第 22 回日本ラカン協会大会シンポジウム「「クィア精神分析」の可能性——精神分析とジュデイス・バトラー」. 日本ラカン協会. オンライン. 2022.12.04. 組織・司会・講演原稿の翻訳および

び通訳.

I. その他の研究活動

- 東京大学ヒューマニティーズセンター・フェロー (2021.10–2022.09) /同センター公募研究 A 「人間、言語、場所——ジャック・ラカンの精神分析思想」に関する研究.
- 「性の多様性の理論的基礎づけ——ラカン派精神分析の観点から」(科学研究費補助金・基盤研究 C) に関する研究.
- 「結婚の歴史再考——フランスの事例から見る (ポスト) 結婚、生殖、親子、家族」(科学研究費補助金・基盤研究 B) に関する研究.
- 「文化の新たな理論言語——ラカンの精神分析に基づく人文科学のマテーム構築の基礎的研究」(科学研究費補助金・基盤研究 C) に関する研究.

平松彩子 (HIRAMATSU Ayako)

F. その他の業績

- 平松彩子. アメリカの公共図書館と市民. 『教養学部報』. 633. p. 5. 東京大学教養学部. 2022.1.5.
- 平松彩子. アンケート 東大教師が新入生にすすめる本. 『UP』. 51.4. pp. 17–18. 東京大学出版会. 2022.4.
- 平松彩子. 新刊紹介 西山隆行著『〈犯罪大国アメリカ〉のいま——分断する社会と銃・薬物・移民』. 『アメリカ学会会報』. 208. p. 14. アメリカ学会. 2022.4.

藤岡俊博 (FUJIOKA Toshihiro)

B. 分担執筆

- 藤岡俊博. 利己愛から利益へ——レヴィナスとジャンセニスム. 杉村靖彦・渡名喜庸哲・長坂真澄 (編). 『個と普遍 レヴィナス哲学の新たな広がり』. p. 422. pp. 244–261. 法政大学出版局. 2022.
- 藤岡俊博. いま「暴力」を考えるために——暴力論の展開と展望. 伊達聖伸・藤岡俊博 (編). 『「暴力」から読み解く現代世界』. p. 208. pp. 9–20. 東京大学出版会. 2022.
- 藤岡俊博. はじめに (pp. iii–v). 来歴——1920年代 (pp. 5–6). 基本概念——身代わり (pp. 56–58). 著作解題——『全体性と無限』 (pp. 86–90). 著作解題——『超越と知解可能性』 (pp. 137–139). レヴィナスと社会科学 (pp. 244–250). レヴィナス協会 (編). 『レヴィナス読本』. p. 352. 法政大学出版局. 2022.

E. 翻訳

- 藤岡俊博 (訳). マルク・オジェ (著). 『メトロの民族学者』. p. 147. 水声社. 2022.

F. その他の業績

- 藤岡俊博. インタビュー記事. フランス留学を経て. 自分が「他者」になる経験を. 私を変えたあの時、あの場所. 東京大学教養学部国際交流センター・グローバルセッションオフィス.

2022.1.25.

- 藤岡俊博. 書評. 渡名喜庸哲『レヴィナスの企て 『全体性と無限』と「人間」の多層性』(勁草書房、2021年). 『ベンヤミンと実存思想 実存思想論集 37』. 実存思想協会. pp. 216–218. 2022.
- 藤岡俊博. エッセイ. 「戦争漫画」と女性 コミカライズ版『戦争は女の顔をしていない』によせて. 『ユリイカ 2022年7月号』. pp. 198–206. 青土社. 2022.
- 藤岡俊博. 書評. 人間の「多層性」における「倫理」の地位——渡名喜庸哲『レヴィナスの企て』に寄せて. 『レヴィナス研究』. 4. pp. 47–54. レヴィナス協会. 2022.

G. 国際学会での活動

- Levinas et Merleau-Ponty : Le corps et le monde. Centre Culturel International de Cerisy. 2022.7.10. 一般発表. Emmanuel Levinas et la pensée économique. フランス語.

H. 国内学会での活動

- バタイユ・ブランショ研究会. 東京大学. 2022.7.31. 湯浅博雄『贈与の系譜学』(講談社、2020)をめぐって.
- グローバル・スタディーズ・セミナー. 東京大学グローバル・スタディーズ・イニシアティブ(GSI). 2022.9.26. レヴィナスのエッセイを読む——脇道からのレヴィナス入門.

藤崎衛 (FUJISAKI Mamoru)

B. 分担執筆

- 藤崎衛・大貫俊夫. 教会と修道会. 高山博・亀長洋子(編). 『中世ヨーロッパの政治的結合体 統治の諸相と比較』. p. xii + 627 + 4. pp. 283–290. 東京大学出版会. 2022.
- 藤崎衛. 教皇使節論——代理人による教皇の教会統治. 高山博・亀長洋子(編). 『中世ヨーロッパの政治的結合体 統治の諸相と比較』. p. xii + 627 + 4. pp. 291–310. 東京大学出版会. 2022.

D. 一般学術論文

- 藤崎衛. 教皇庁とモンゴルとの接触——13世紀におけるコミュニケーション手段. 『メトロポリタン史学』. 17. pp. 67–88. メトロポリタン史学会. 2021.

F. その他の業績

- 藤崎衛(語り手). 学生時代を振り返って——藤崎先生に聞く. 『紀尾井論叢』. 7. pp. 47–57. 上智大学 Spientia 会. 2022.

G. 国際学会での活動

- Papstzoom: (Miss-)Verstehen – (Fra-)intendimento II. Seminar of Professor Jochen Johrendt. Bergische Universität Wuppertal (Online). 2022.6.3. 招待講演. Efforts at understanding and awareness of misunderstanding: Communication between popes and Mongolian monarchs in the Middle Ages. 英語.

H. 国内学会での活動

- イタリア中近世史研究会 2022年度研究会. イタリア中近世史研究会. 東京大学. 2022.8.30. 一

般発表. 教皇とモンゴル君主間のコミュニケーションにおける理解の努力と誤解の自覚.

- 2022 年度西洋史研究会大会共通論題「13 世紀ユーラシアにおけるキリスト教世界とモンゴル帝国」. 西洋史研究会. オンライン. 2022.11.20. 招待講演. 教皇とフレグ・ウルス君主の間におけるコミュニケーション——翻訳・通訳をめぐる問題.

I. その他の研究活動

- ドミニコ会士アンジェロ・オルスッチ (Angelo Orsucci) に関する史料調査.

黛秋津 (MAYUZUMI Akitsu)

B. 分担執筆

- 黛秋津. 冷戦後東欧地域における紛争と暴力の歴史的背景——ユーゴスラヴィアとウクライナ. 伊達聖伸, 藤岡俊博 (編著). 『暴力から読み解く現代世界』. p. 208. pp. 129–143. 東京大学出版会. 2022.

D. 一般学術論文

- 黛秋津. 歴史から見たロシア「勢力圏」の虚実——黒海沿岸地域におけるロシアの影響力. 『外交』. 72. pp. 76–81. 都市出版. 2022.

F. その他の業績

- 黛秋津. エッセイ. 歴史の中のウクライナ——古くて新しい国、周縁にして中心. 『UP』. 2022.5. pp. 2–8. 東京大学出版会. 2022.
- 黛秋津. 雑誌記事. ウクライナは独立してわずか 30 年だが、アイデンティティーが浸透している. 『AERA』. 2022.5.2–9 合併号. p. 18. 朝日出版社. 2022.
- 黛秋津. 書評. 本の棚 Moss, Kenneth B., Benjamin Nathans, and Taro Tsurumi, eds., *From Europe's East to the Middle East: Israel's Russian and Polish Lineages*, University of Pennsylvania Press, 2021. 『教養学部報』. 639. 2022.10.3.
- MAYUZUMI A., 雑誌論文英訳記事. Russia's "Sphere of Influence" Mirage: Historic View of the Black Sea Region. *WORLD INSIGHT*. 15 December 2022. <https://worldinsight.com/news/politics/russias-sphere-of-influence-mirage-historic-view-of-the-black-sea-region/>.

H. 国内学会での活動

- 公開シンポジウム「アジアから見たウクライナ戦争——世界の視線の多様性と日本の選択」. 日本学術会議. オンライン. 2022.9.18. 招待講演. 黒海から見たウクライナ戦争.

村松真理子 (MURAMATSU Mariko)

D. 一般学術論文

- 村松真理子. ダンテ『神曲』の森と植物をめぐる——大江健三郎とマリア・コルティの対話に導かれて. 『Odysseus 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻紀要』. 26. pp. 143–156. 2022.

F. その他の業績

- 村松真理子. 概観 (イタリア文学). 『文藝年鑑 2022』. 新潮社. pp. 82–84. 2022.

G. 国際学会での活動

- Società Italiana per la Protezione dei Beni Culturali (イタリア文化財保護協会) 主催第 11 回国際シンポジウム“The Disasters of War. Why Save the Culture”. Sala Convegni “Mater Dei”, Alessandria 県 Tortona 市. 2022.9.22. ディスカッション参加.

H. 国内学会での活動

- イタリア学会主催 2021 ダンテ国際シンポジウム「今、ダンテを問う——詩人没後七〇〇年・学会創立七〇年を記念して」. 京都産業大学 (オンライン同時開催). 2021.10.24. 組織委員. 午後の部「越境するテキストの旅と記憶」司会および趣旨説明・コーディネーター. ラウンドテーブル「ダンテのテキストにおける古代・中世と現代性」司会.

I. その他の研究活動

- 連続 3 回ワークショップ「イタリア ローマ時代遺跡 東京大学 発掘調査 20 年の軌跡——記録映像上映会・対談」. 企画・実行・ファシリテータ. 東京大学駒場キャンパス. 2022.7.4, 7.10, 7.11.
- パヴィア大学工学部修復建築学科連続講義 (伊日財団後援). “La tradizione culturale e il restauro della memoria: l’Italia e lo specchio giapponese in letteratura, città e architettura” (「文化の伝統と記憶の修復——文学・都市・建築におけるイタリアと日本という鏡」). パヴィア大学 Kirolab. オンライン配信. 2022.10.12, 10.19, 11.9, 11.23, 12.7.
- パヴィア大学 Collegio Nuovo 主催シンポジウム“Icone dal Giappone—Letteratura, Arte e Moda”. (「日本という表象——文学、アート、ファッション」). 発表. *Ota occidentale* di Gabriele D’Annunzio ovvero la poetica giapponese alla dannunziana (ガブリエレ・ダンヌンツィオによる「西洋風短歌」と日本の作詩法の解釈). パヴィア大学 Collegio Nuovo 講演会ホール・オンライン配信. 2022.10.25.
- 在日イタリア大使館制作オンライン配信ビデオ「ダンテ 700 年を記念して～イタリアの詩聖とその文学を語る——700 Anni di Dante Alighieri」. 企画・出演.
<https://www.youtube.com/watch?v=5xfsikM1rAg>.

森井裕一 (MORII Yuichi)

A. 著書

- 森井裕一編. 『ヨーロッパの政治経済・入門』【新版】. p. 358. 有斐閣. 2022.

B. 分担執筆

- 森井裕一. ドイツ:変容する秩序への対応と国内政治. 岡部みどり編『世界変動と脱EU/超EU——ポスト・コロナ、米中覇権競争下の国際関係』. p. 326. pp. 29–47. 日本経済評論社. 2022.

F. その他の業績

- 森井裕一. 書評. 本の棚. 伊達聖伸・藤岡俊博編『「暴力」から読み解く現代世界』. 東京大学出版会. 2022. 『教養学部報』. **639**. 2022.10.3.
- 森井裕一. 解説. ドイツ、ウクライナに武器供与へ転換. 『エコノミスト』. 毎日新聞出版. 2022.3.29. p.75.

H. 国内学会での活動

- 森井裕一. 発表. 安全保障環境の変化とドイツ外交. シンポジウム「米・中・ロシア鼎立にみる国際構造変動と EU」. 上智大学国際関係研究所. 2022.7.23.

森山工 (MORIYAMA Takumi)

A. 著書

- 『「贈与論」の思想——マルセル・モースと〈混ざりあい〉の倫理』. p. 365. インスクリプト. 2022.11.21.

D. 一般学術論文

- 〈贈与〉と〈譲りえぬもの〉の政治学. 『UP』. **51.1** (通巻 591 号). pp. 7–12. 一般財団法人東京大学出版会. 2022.1.5.

F. その他の業績

- 他者・差異・類似. 『HOYU PROMENADE』 駒場東邦中学校・高等学校同窓会邦友会会誌. pp. 10–11. 駒場東邦邦友会. 2022.3.1.
- 差異と類似のはざま——あるいはマダガスカルで骨折するということ. 『教養学部報』. **635**. pp. 1–2. 東京大学教養学部. 2022.4.1.
- 令和4年度入学式 教養学部長式辞. 『学内広報』. **1557**. pp.19–20. 東京大学広報室. 2022.4.22.
- The Diversity of Knowledge and Human Beings Faced with the Anthropocene. 『教養学部報』. **640**. p. 1. 東京大学教養学部. 2022.11.1.

H. 国内学会での活動

- 日仏会館・フランス国立日本研究所主催. 日仏会館日仏春秋講座「人新世の脱構築」. Zoom Webinar. 2022.7.6. 司会・モデレーター (日本語, 日仏同時通訳付き). (講師: フィリップ・デスコラ, 山極壽一).
- 森山工×重田園江トークイベント「モースとアーレントを再読する——〈戦争〉の時代に」. 『「贈与論」の思想』 / 『真理の語り手』 W刊行記念. 週刊読書人主催. 重田園江との対談. 読書人隣り. 2022.12.15. 対面形式・オンライン形式併用.

矢口祐人 (YAGUCHI Yujin)

B. 分担執筆

- 矢口祐人. 暴力と非暴力のアメリカ. 伊達聖伸・藤岡俊博編. 『「暴力」から読み解く現代世界』. p. 201. pp. 61–72. 東京大学出版会. 2022.

G. 国際学会での活動

- Rome Call for AI Ethics: A Global University Summit. University of Notre Dame. University of Notre Dame / South Bend, Indiana. 2022.10.26. 招待パネリスト. 英語.

H. 国内学会での活動

- 亜熱帯・KUROSHIO 研究教育拠点の形成と展開事業キックオフシンポジウム「奄美 KUROSHIO 研究拠点の夢を語る」. 東京大学大気海洋研究所. 奄美市市民交流センター. 2022.12.2. 招待講演. 島々を繋ぐ文化——太平洋島嶼地域との比較で考える.
- 亜熱帯・KUROSHIO 研究教育拠点の形成と展開事業普及後援会「セカイとつながる奄美——島嶼域における環境学研究」. 東京大学大気海洋研究所. 奄美市市民交流センター. 2022.12.3. 招待講演. The Sea of Islands って何.

山口輝臣 (YAMAGUCHI Teruomi)

B. 分担執筆

- 山口輝臣. はしがき／渋沢栄一はなぜ「宗教」を支援したのか／蓮沼門三と渋沢栄一. 山口輝臣編. 『渋沢栄一はなぜ「宗教」を支援したのか——「人」を見出し、共鳴を形にする』. p. 232. pp. iii-iv, 1-13, 59-85. ミネルヴァ書房. 2022.
- 山口輝臣. 九州帝国大学法文学部における歴史学. 小澤実・佐藤雄基編. 『史学科の比較史——歴史学の制度化と近代日本』. p. 608. pp. 168-204. 勉誠出版. 2022.
- 山口輝臣・福家崇洋. 刊行の辞. 山口輝臣・福家崇洋編. 『思想史講義【大正篇】』. p. 320. pp. 9-10. ちくま新書. 2022.
- 山口輝臣・福家崇洋. 刊行の辞.／山口輝臣. はじめに.／山口輝臣. 祭政一致. 山口輝臣・福家崇洋編. 『思想史講義【明治篇 I】』. p. 336. pp. 9-10, 10-22, 39-55. ちくま新書. 2022.
- 山口輝臣・福家崇洋. 刊行の辞. 山口輝臣・福家崇洋編. 『思想史講義【戦前昭和篇】』. p. 336. pp. 9-10. ちくま新書. 2022.
- 山口輝臣 (共同編集). 寺内正毅関係文書研究会編. 『寺内正毅関係文書 2』. p. 576. 東京大学出版会. 2022.

F. その他の業績

- 山口輝臣. 東京大学駒場博物館所蔵「藤本文書」の来歴. 『日本歴史』. 888. pp. 19-21. 2022.
- 山口輝臣 (共同執筆). 『詳説日本史探求』. p. 392. 山川出版社. 2022 年 3 月検定済.
- 山口輝臣 (共同執筆). 『高校日本史』. p. 296. 山川出版社. 2022 年 3 月検定済.

I. その他の研究活動

- 濱口梧陵偉業顕彰シンポジウム. 梧陵さんは、どこから来て、どこへ行ったのか?. 講演. 2022.3.19. 旧和歌山県議会議事堂.
- 渋沢栄一と「フィランソロピー」6巻・7巻出版記念学術シンポジウム. 「無宗教」の実業家・渋沢栄一が支援した「宗教」. 発表. 2022.11.4. 国際文化会館.

和田毅 (WADA Takeshi)

B. 分担執筆

- 和田毅. 水紛争はどこで起きているのか——各種データベースの比較検討を通じて. 藤原帰一, 竹中千春, ナジア・フサイン, 華井和代 (編). 『気候変動は社会を不安定化させるのか——水資源をめぐる国際政治の力学』. p. 300. pp. 123–144. 日本評論社. 2022.
- 和田毅. 「グローバルな俯瞰力」と「ローカルな視点」をつなぐ——メキシコの抗議行動のイベント分析を例に. 國分功一郎, 清水光明 (編). 『地球的思考——グローバル・スタディーズの課題』. p. 426. pp. 261–284. 水声社. 2022.
- 和田毅. 社会運動と「暴力」の関係——メキシコの抗議行動分析を中心に. 藤岡俊博, 伊達聖伸 (編). 『「暴力」から読み解く現代世界』. p. 201. pp. 179–197. 東京大出版会. 2022.

C. レフェリー付き学術論文

- 和田毅, 三浦航太. 水紛争を持続可能な開発目標に沿った形で解決できるか. 『ラテン・アメリカ論集』. 56. pp. 35–65. ラテン・アメリカ政経学会. 2022.

G. 国際学会での活動

- The Fourth Chile-Japan Academic Forum 2022. Los Lagos, Chile. 2022.11.28–12.2. 一般発表. Big Data & Natural Language Processing Approaches to the Study of Political Events: Strikes and Demonstrations in Chile, 2002–2022. 英語.
- LASA2022. International Congress of the Latin American Studies Association. Hybrid Congress. 2022.5.5–5.8. 一般発表. Protest Event Data Analysis: Concepts, Measurement, and Recent Development of Its Study in the Region. 英語.
- LASA/Asia 2022. The First Continental Congress of the Latin American Studies Association. Virtual Congress. 2022.2.15–2.19. Debating Social Movements, Protest and Contentious Dynamics across Asia and Latin America. 英語. 司会.

H. 国内学会での活動

- TCJS Seminar Series, UTokyo Center for Contemporary Japanese Studies, The University of Tokyo (東京). 2022.2.24. 招待講演. Convention, Protest, or Violence? Explaining Tactical Choices in Contentious Political Events around the World. 英語.

I. その他の研究活動

- 『気候変動は社会を不安定化させるか』出版記念シンポジウム. 東京大学未来ビジョン研究センター (IFI) SDGs 協創研究ユニット. 執筆者発表. オンライン開催. 2022.12.14.

渡邊祥子 (WATANABE Shoko)

C. レフェリー付き学術論文

- Shoko Watanabe. La dichotomie ulémas / marabouts en question: la sociologie française de l'islam et le

réformisme musulman en Algérie. *Annals of Japan Association for Middle East Studies*. **37.2**. pp. 101–129. 2022.

D. 一般学術論文

- Shoko Watanabe. Essai introductif. *Annals of Japan Association for Middle East Studies*. **37.2**. pp. 97–100. 2022.

G. 国際学会での活動

- Shoko Watanabe. Translating Islamic Ethics into Modern Institutions: Debates on the Separation of Islam and State in Colonial Algeria, 1947–1954. The Research Center for Islamic Legislation and Ethics (CILE) International Seminar “The State and Public Morality in Muslim Contexts and Beyond.” CILE, Doha (Qatar). 10 May 2022 (Online participation).
- Shoko Watanabe. L'enquête de 1958 sur la pratique religieuse et la société algérienne en guerre. Colloque international « La Révolution algérienne entre apport populaire et stratégie française 1954-1962. » Université de Chlef (Algérie). 21 Novembre 2022.
- Shoko Watanabe. L'Afro-asianisme, l'Algérie, et le développement des études arabes au Japon. Séminaire pour les étudiants. Université de Chlef (Algérie). 22 Novembre 2022.